

	3次総	4次総
基本構想	1 まちづくりの目標 2 目指す都市像 (1)「歴史文化のまち」づくり (2)「健康長寿のまち」づくり 3 市政のさらなる展開 (1)「創造する力」による「都市の発展」 (2)「つながる力」による「くらしの充実」 4 基本計画の策定	1 まちづくりの目標 2 目指す都市像 3 市政のさらなる展開 4 基本計画の策定
基本計画	第1章 基本計画のフレーム (1) 基本計画の位置づけ (2) 基本計画の区域 (3) 基本計画の期間 (4) 基本計画の内容 (5) 実施計画の策定	第1章 基本計画のフレーム (1) 基本計画の位置づけ (2) 基本計画の区域 (3) 基本計画の期間 (4) 基本計画の内容 (5) 実施計画の策定
	第2章 時代の潮流	第2章 時代の潮流
	第3章 目標人口 (1) 本市の人口状況 (2) 目標人口の設定	第3章 持続可能なまちづくり (1) 地域の活力維持 ①人口フレーム ②地域の活力維持の考え方 ※総合戦略が読み込めるように、最低限の基本的な考え方を記載する。事業は実施計画で示す。 (2) SDGs ※SDGsに対する基本的な考え方を記載する。事業は実施計画で示す。 (3) デジタル (4) グリーン
	第4章 重点プロジェクト (1)「創造する力」による「都市の発展」 歴史都市・文化都市・中枢都市 (2)「つながる力」による「くらしの充実」 健康都市・防災都市・共生都市	第4章 7大構想 ※現在の5大構想のアップデートを想定
	第5章 分野別の基本的な方向性 ①観光・交流 ②農林水産 ③商工・物流、 ④文化・スポーツ ⑤子ども・教育 ⑥都市・交通 ⑦社会基盤 ⑧健康・福祉 ⑨防災・消防 ⑩生活・環境	第5章 分野別の基本的な方向性 ①観光・交流 ②農林水産 ③商工・物流、 ④文化・スポーツ ⑤子ども・教育 ⑥都市・交通 ⑦社会基盤 ⑧健康・福祉 ⑨防災・消防 ⑩生活・環境 ※基本的な考え方のみとし、具体的な取組、内容などは実施計画で示す。
	第6章 各分野の政策・施策を推進するための視点 1 市民自治 (1) 知らせる (2) やってみる (3) 深める (4) つながる 2 都市経営 (1) 質の高い行財政運営 (2) 効果的なアセットマネジメント (3) ICTの高度利用 (4) 多面的な広域行政	第6章 各分野の政策・施策を推進するための視点 1 市民自治 2 都市経営
	第7章 都市構造軸の考え方	第7章 都市構造軸の考え方 (要調整)
	第8章 各区の取組	第8章 各区の取組

※市民向けの冊子は、上記の基本構想、基本計画の構成(目次)にとらわれず、高校生でも読みやすいような構成(内容)とする。

また、表紙などのデザインを工夫し、思わず手に持って見たいくなるような作りにする。

	3次総	4次総
実施計画	第1 序説 1 実施計画策定の主旨 2 計画期間 3 後期実施計画の策定 4 実施計画の基本的事項	第1 <u>実施計画について</u> 1 実施計画策定の主旨 2 計画期間 3 実施計画の策定 4 実施計画の基本的事項
	第2 5大構想	第2 <u>地域活力維持に向けた取組</u>
	第3 人口「70万人」プロジェクト (静岡市総合戦略の推進)	第3 <u>SDGsの取組</u>
	第4 重点プロジェクト	第4 <u>7大構想の取組</u>
	第5 分野別の基本的な方向性	第5 分野別の基本的な方向性
	第6 各分野の政策・施策を推進 するための視点	第6 各分野の政策・施策を推進 するための視点
	第7 行政区別事業計画	第7 行政区別事業計画
	第8 財政シミュレーション	第8 財政シミュレーション

参考2

# 人口動態に関する基礎データ

令和3年6月

静岡市 企画局 企画課

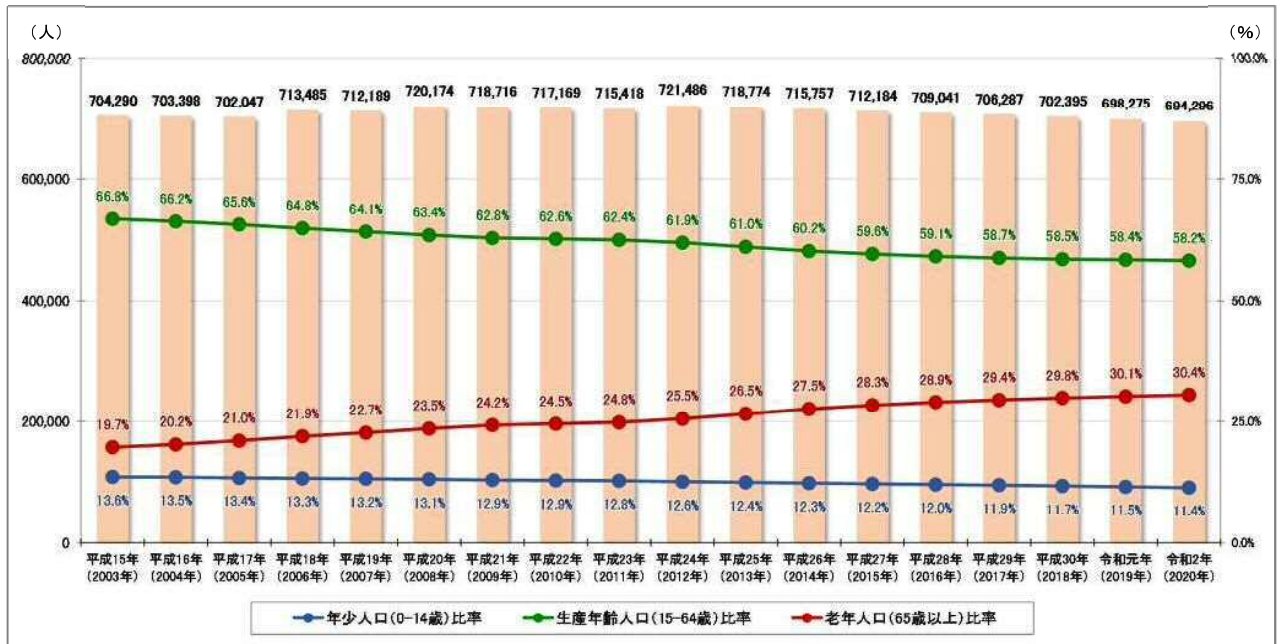
## 目 次

1-1. 人口の推移 .....	1
1-2. 人口動態（自然増減、社会増減） .....	2
1-3. 出生数及び死亡数 .....	3
1-4. 転出数及び転入数（静岡市全域・区別） .....	4
1-4. 転出数及び転入数（日本人・外国人別） .....	5
1-5. 年齢5歳階級別の転入・転出状況（令和元年度） .....	6
1-6. 年齢1歳階級別の県外への転入・転出状況（令和元年度） .....	8
1-7. 静岡市からの主な転出先、静岡市への主な転入元 .....	9
1-8. 人口・世帯の構造 .....	10
1-9. 外国人住民 .....	11
1-10. 昼夜間人口比率 .....	12
1-11. 大学・短大生徒数 .....	13
1-12. 将来人口シミュレーション .....	14
1-13. 性別・5歳階級別人口ピラミッド .....	15
1-14. 人口密度増減マップ（2015年→2045年） .....	16
1-15. 年齢三区分別人口割合の推移マップ（2015年→2045年） .....	18
1-16. 連携中枢都市圏の圏域人口（静岡市を除く） .....	21
1-17. 連携中枢都市圏の将来人口シミュレーション（静岡市を除く） .....	22
1-18. 県内自治体間における人の動き .....	23

## 1-1. 人口の推移

- ◆ 本市の人口は令和2年12月31日時点で694,296人である。平成2年をピークに人口減少に転じており、令和元年に初めて70万人を下回った。
- ◆ 年少人口、生産年齢人口の減少と老年人口の増加により、少子高齢化が進行している。

図1-1. 人口の推移

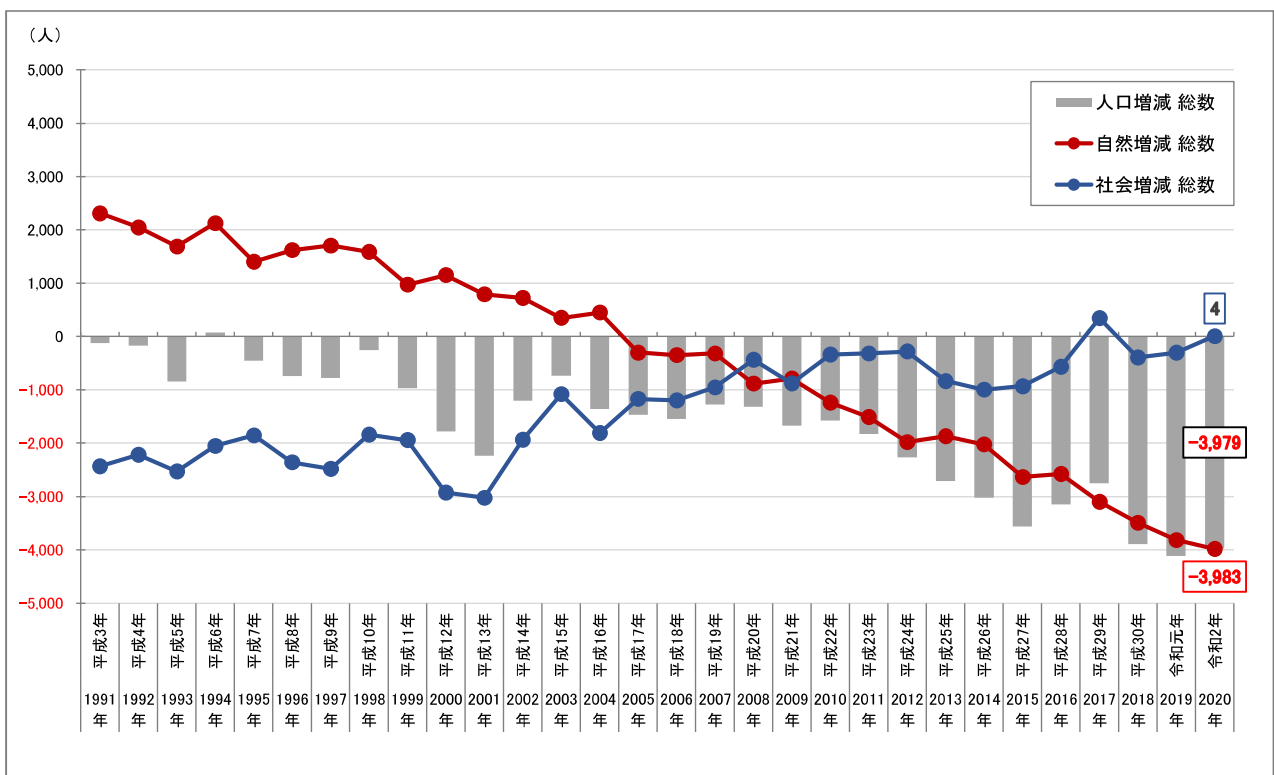


【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

## 1-2. 人口動態（自然増減、社会増減）

- ◆ 自然増減は少子高齢化社会の進行に伴う出生数の減少、死亡者数の増加により急速に減少し続けており、令和2年には▲3,983人となった。
- ◆ 社会増減は平成19年以降増加傾向にあり、平成29年、令和2年には転入者数が転出者数を上回っている。
- ◆ 「平成27年市区町村別生命表」(厚生労働省)によると、本市の平均余命は、男性が80.9歳、女性は87.1歳。団塊世代は、男性は2028年、女性は2034年に平均余命年齢に達するため、死亡数は、増加傾向が続くことが予想される。

図1-2. 人口動態



【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

### 1-3. 出生数及び死亡数

- ◆ 出生数は平成29年に5,000人を下回って以降、減少傾向が続いており、死亡数は高齢者の増加に伴い増加し続けている。
- ◆ 葵区、清水区では自然減のペースが速まっている。

図1-3(1). 自然動態(静岡市全域)

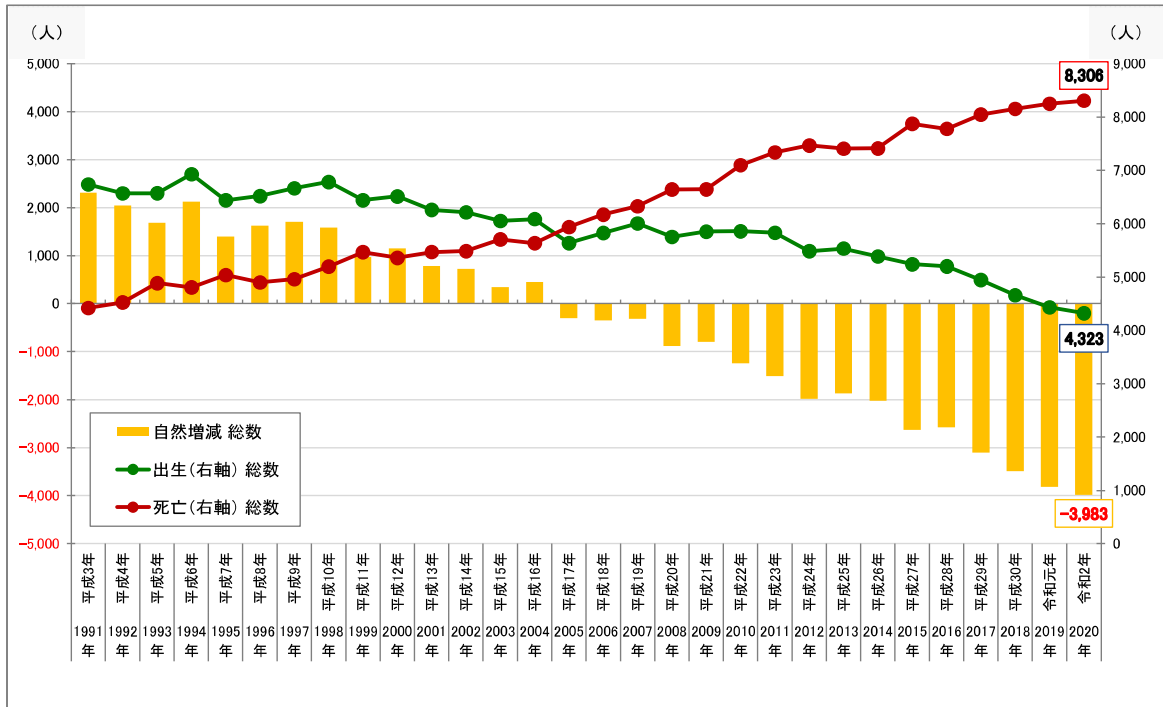
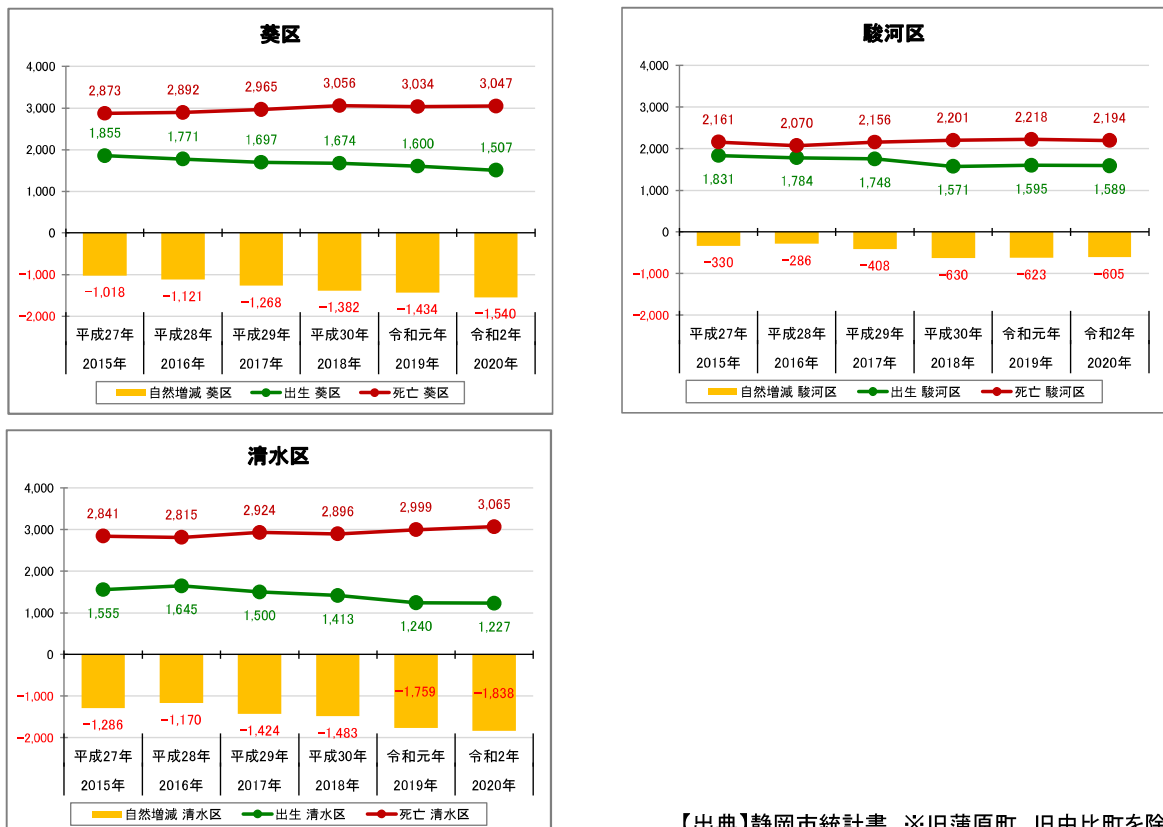


図1-3(2). 自然動態(区別)

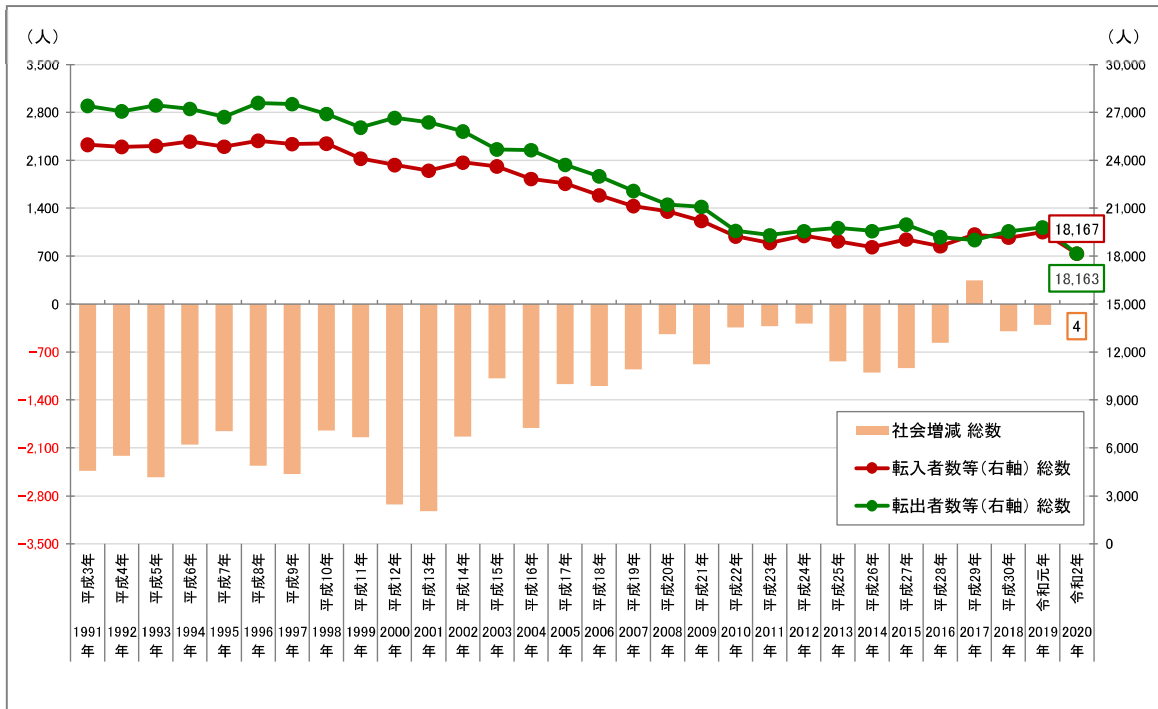


【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

# 1-4. 転出数及び転入数（静岡市全域・区別）

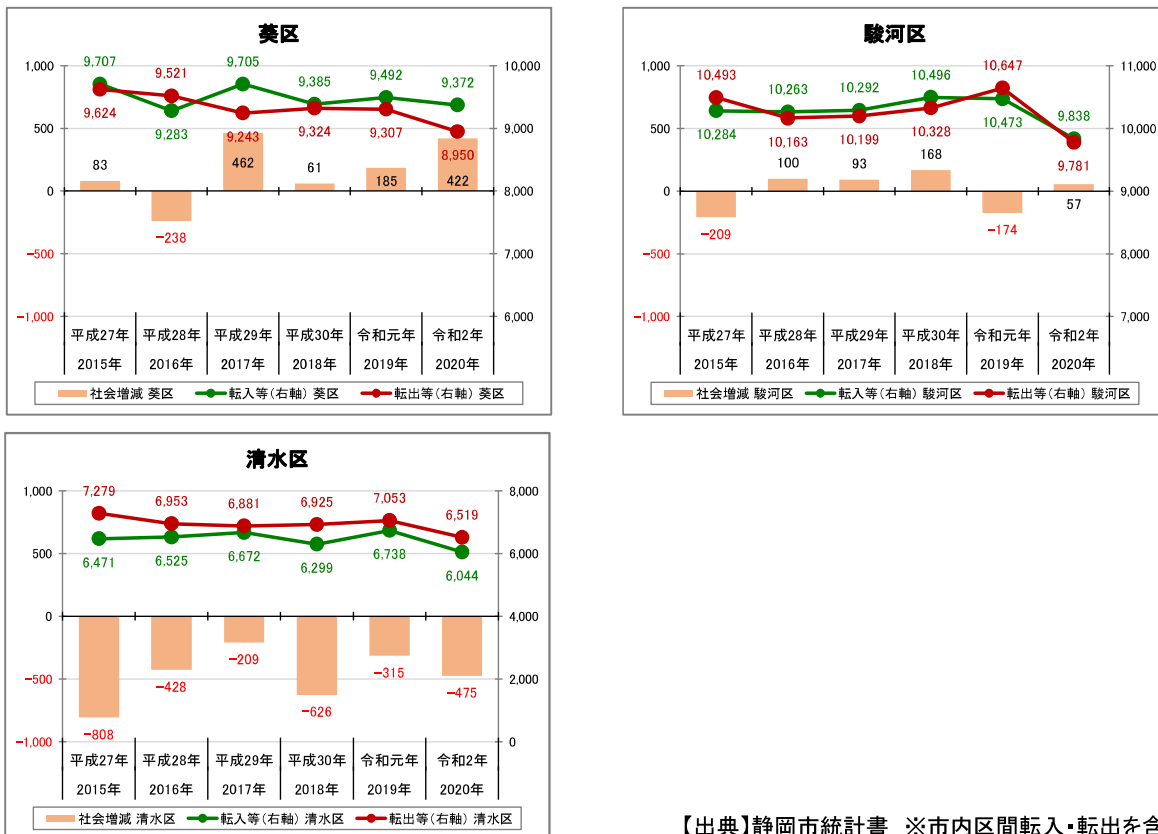
- ◆ 近年、転出超過が続いていたが、平成29年、令和2年には転入超過となっている。
- ◆ 葵区、駿河区ともに転入超過の傾向にあるが、清水区では転出超過が続いている。

図1-4(1). 社会動態（静岡市全域）



【出典】静岡市統計書 ※旧蒲原町、旧由比町を除く

図1-4(2). 社会動態（区別）



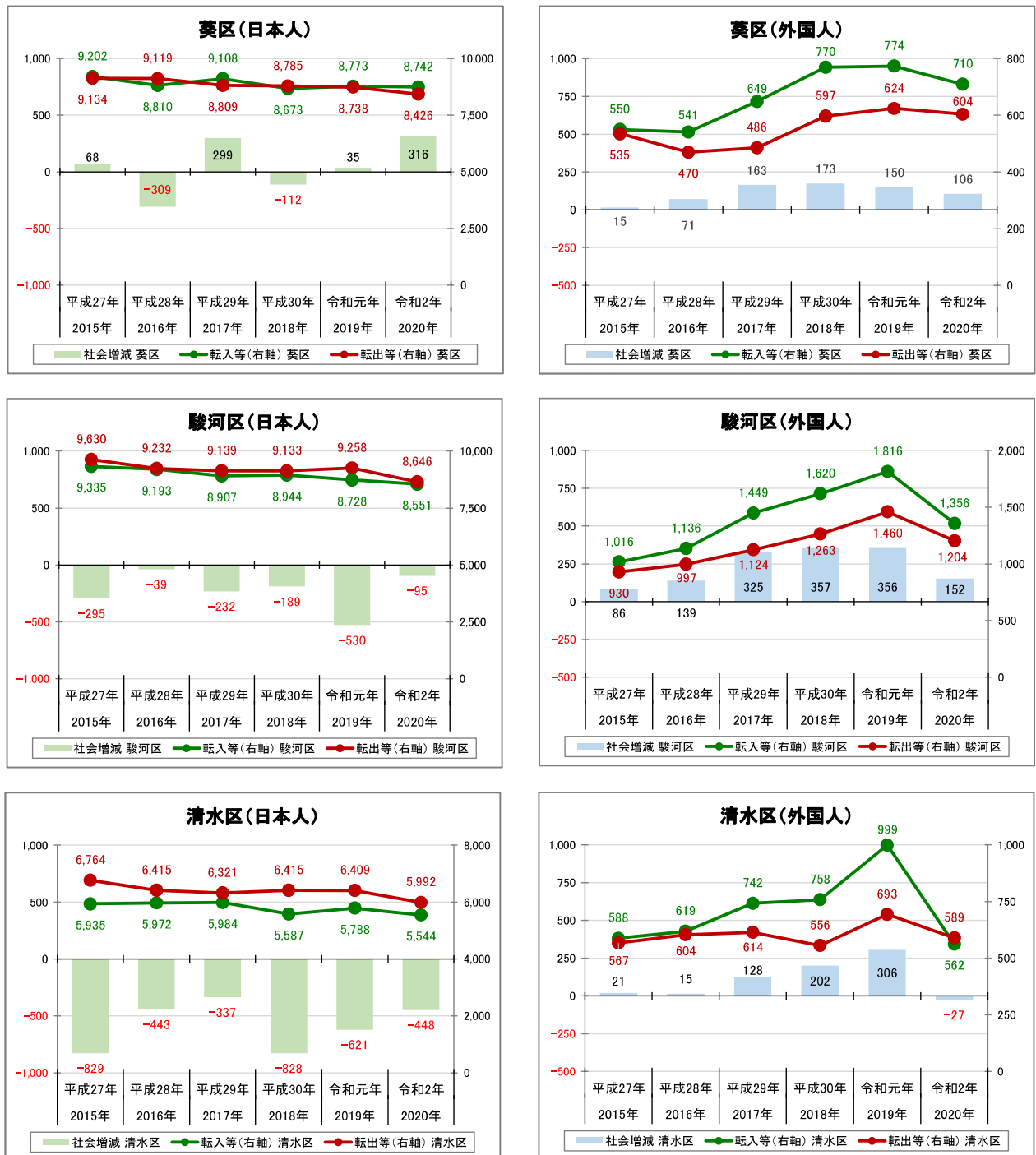
【出典】静岡市統計書 ※市内区間転入・転出を含む値



## 1-4. 転出数及び転入数（日本人・外国人別）

- ◆ 駿河区、清水区において、日本人の転出超過による社会減が進んでいる。
- ◆ 市内全域で外国人人口が増加しており、中でも駿河区での増加が顕著である。

図1-4(3). 社会動態（区別/日本人・外国人別）



【出典】静岡市統計書 ※市内区間転入・転出を含む値

### 1-5. 年齢5歳階級別の転入・転出状況（令和元年度）

- ◆ 10歳代後半から30歳代にかけて特に転出・転入が多く、進学や就職、結婚等による人口移動と考えられる。
- ◆ 清水区では、20～24歳の転出が顕著である。
- ◆ 駿河区では、10歳代後半から20歳代前半にかけて転入超過となっており、大学や短大が数多く立地していることが影響していると見られる。

図1-5(1). 年齢5歳階級別の社会動態

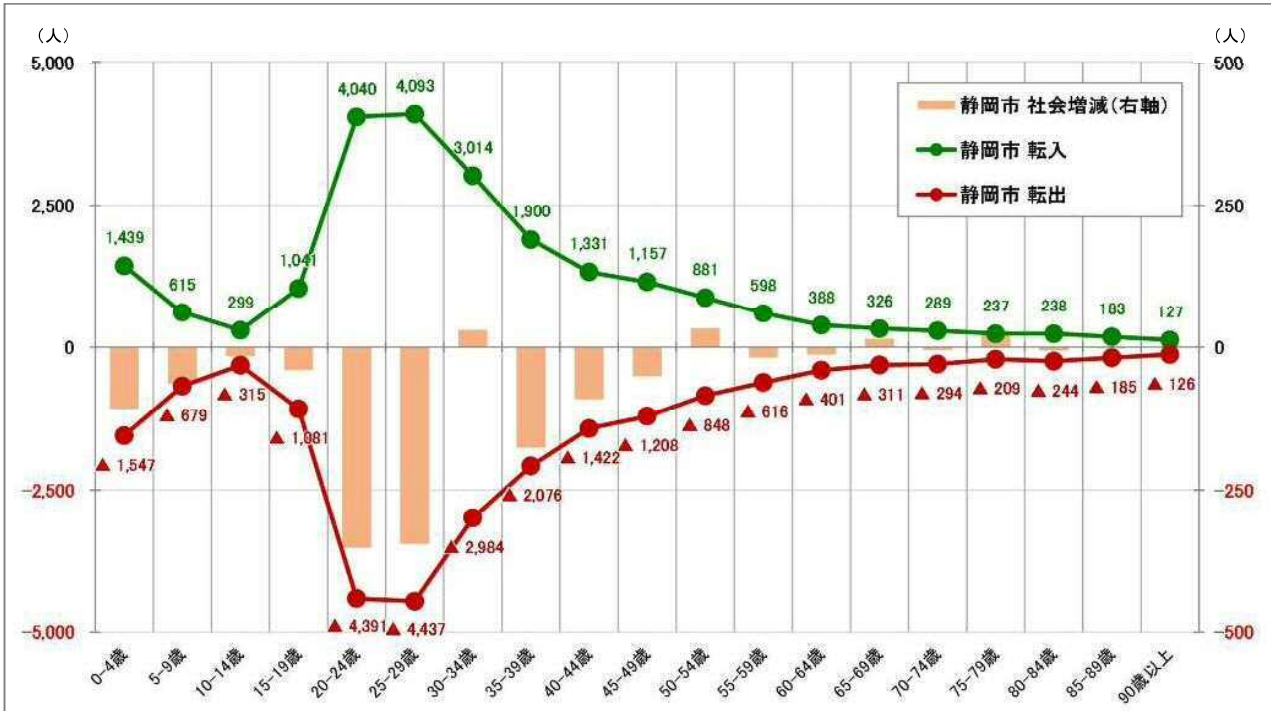
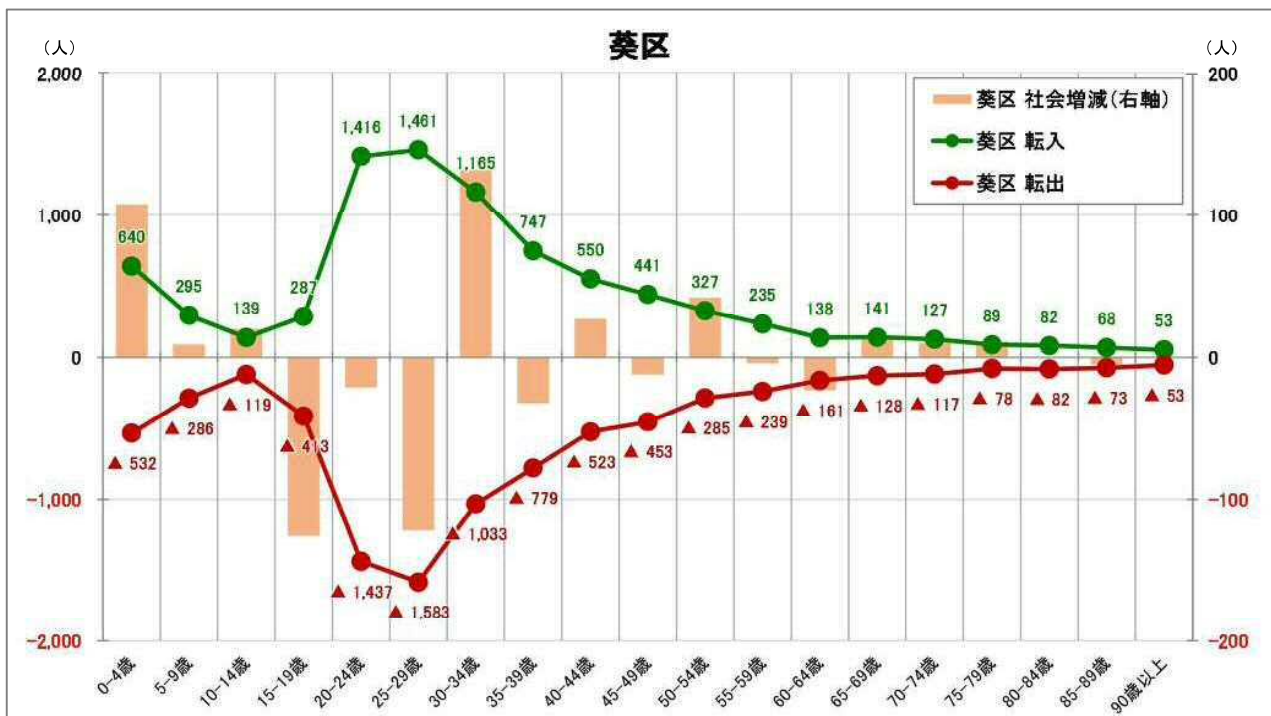
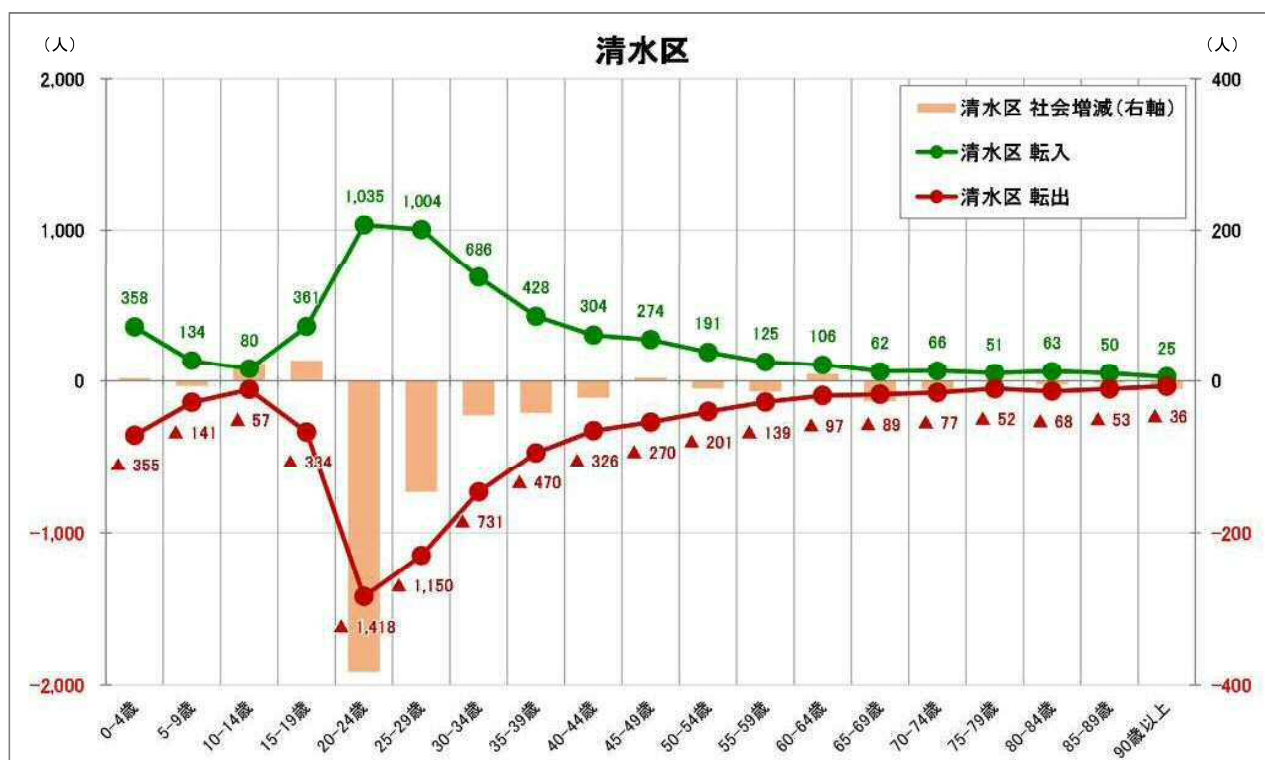


図1-5(2). 年齢5歳階級別の社会動態（区別）



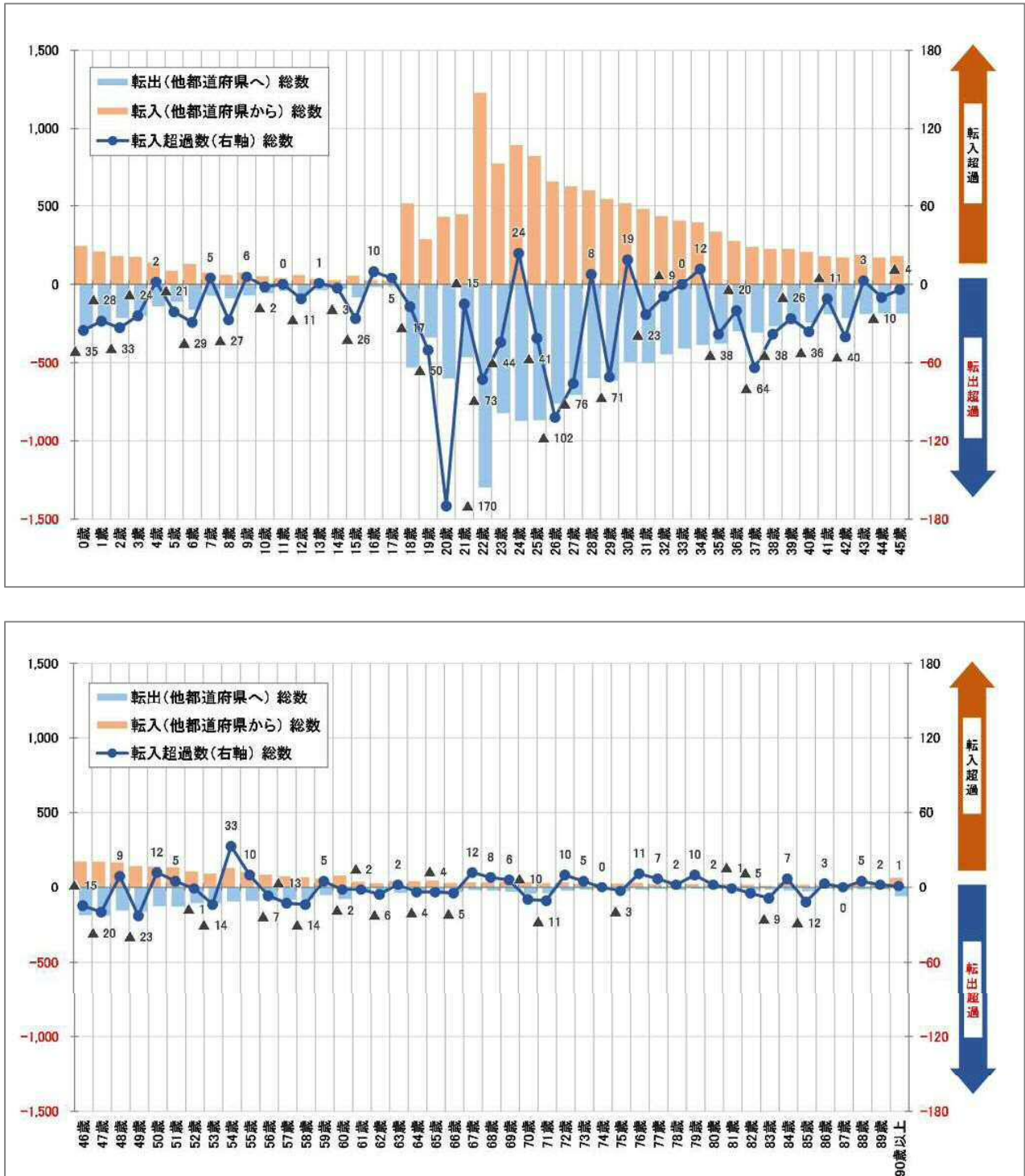


【出所】令和元年度住民基本台帳移動報告(総務省)

## 1-6. 年齢1歳階級別の県外への転入・転出状況（令和元年度）

- ◆ 高校卒業後の進学・就職期である18歳から転入者数、転出者数がともに増加しており、特に短大卒業後の就職期である20歳、大学卒業後の就職期である22歳での転出超過が顕著である。

図1-6. 年齢1歳階級別の県外への転入・転出状況



【出所】令和元年度住民基本台帳移動報告（総務省）

## 1-7. 静岡市からの主な転出先、静岡市への主な転入元（平成22年～平成27年）

- ◆ 神奈川県や東京都などの首都圏や愛知県への転出が多い。
- ◆ 岐阜県や長野県、三重県など近隣の県からの転入が多い。

図1-7(1). 静岡市から転出超過となっている主な都道府県

		転入者数	転出者数	増減数
1	神奈川県	4,004	4,880	▲876
2	東京都	5,159	5,829	▲670
3	愛知県	5,005	5,486	▲481
4	埼玉県	1,527	1,688	▲161
5	京都府	564	695	▲131
6	福岡県	544	612	▲68
7	大阪府	1,239	1,298	▲59
8	宮崎県	80	126	▲46
9	茨城県	407	441	▲34
10	福島県	263	293	▲30

図1-7(2). 静岡市へ転入超過となっている主な都道府県

		転入者数	転出者数	増減数
1	岐阜県	830	578	252
2	長野県	735	578	157
3	三重県	680	535	145
4	福井県	223	118	105
5	山梨県	744	672	72
6	滋賀県	286	219	67
7	群馬県	378	316	62
8	新潟県	366	308	58
9	千葉県	1,777	1,722	55
10	青森県	171	122	49
10	兵庫県	842	793	49

【出所】平成27年国勢調査(総務省)



## 1-8. 人口・世帯の構造

- ◆ 少子高齢化社会の激進な進行により、平成27年には高齢化率が約3割となった。
- ◆ 単独世帯の増加や三世帯世帯の減少により、世帯数の増加、平均世帯人員数の減少が進んでいる。

図1-8(1). 年齢3区分人口の推移

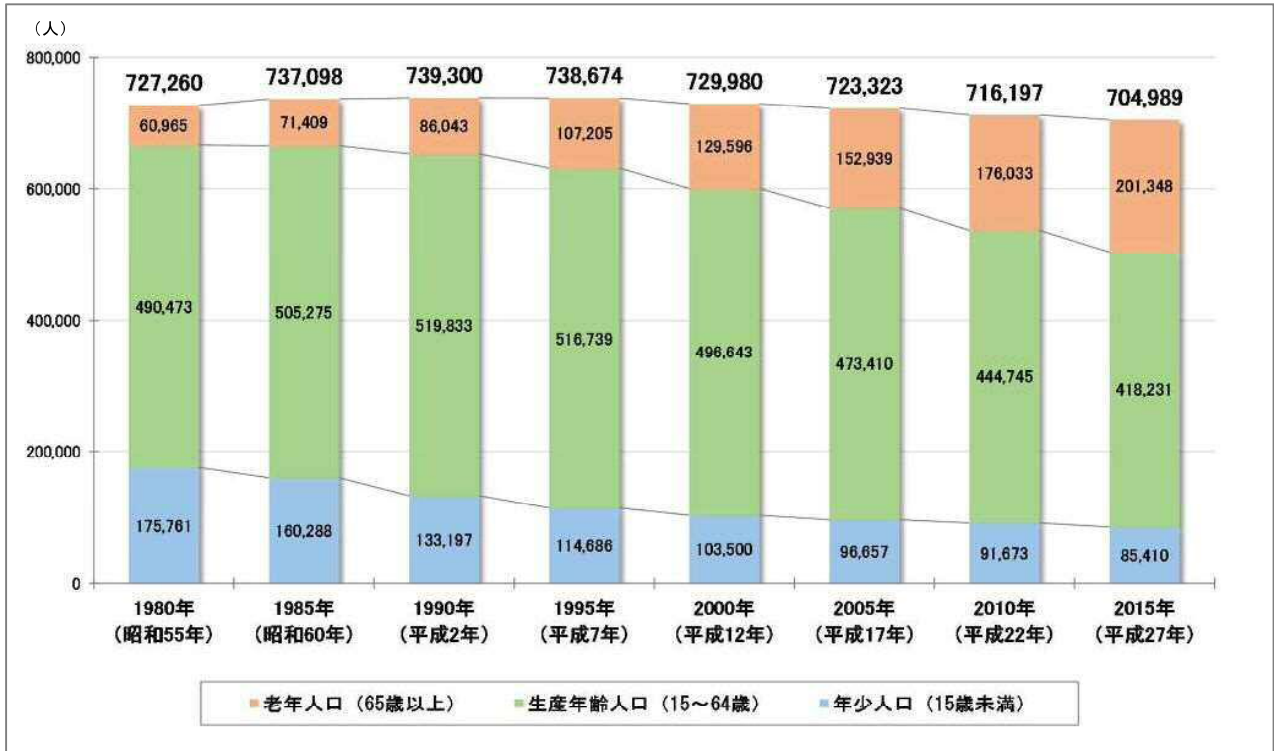
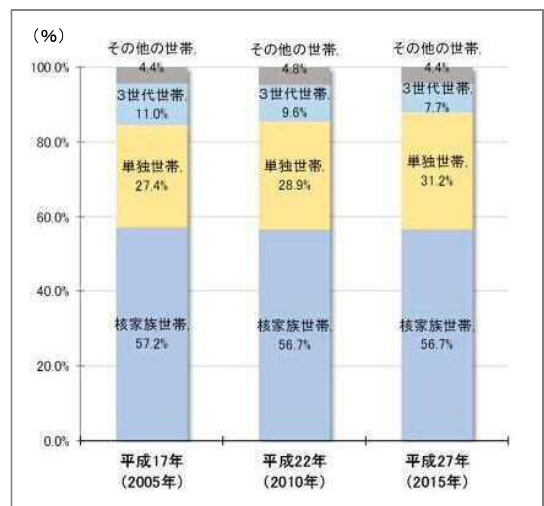


図1-8(2). 世帯数・世帯人員の推移



図1-8(3). 一般世帯の家族類型割合

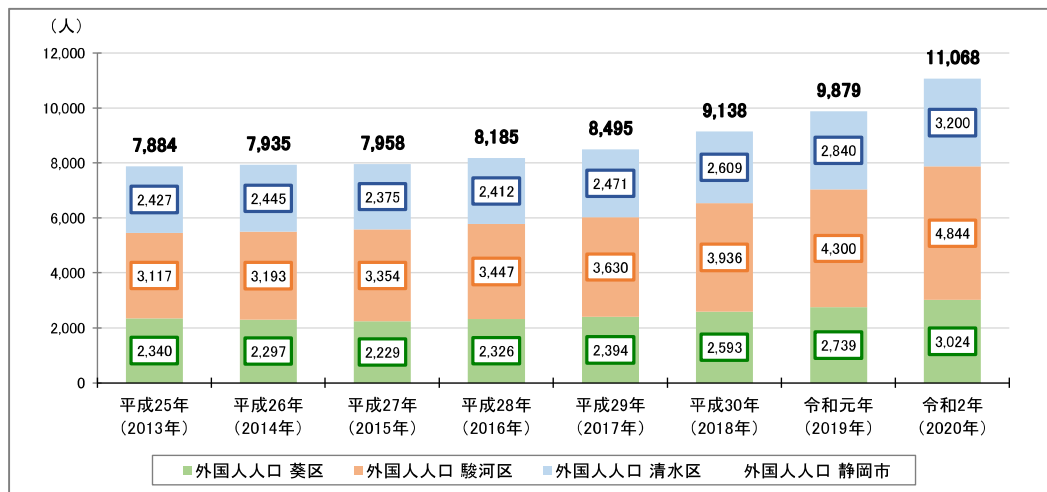


【出典】各年国勢調査(総務省)

## 1-9. 外国人住民

◆ 外国人住民は留学生等の増加により、近年増加傾向にあり、中でも駿河区での増加が顕著である。

図1-9. 外国人人口の推移



【出典】静岡市統計書

## 1-10. 昼夜間人口比率

- ◆ 昼夜間人口比率は 103.0 であり、政令指定都市の中で8番目に高い位置付けとなっている。
- ◆ 静岡市外からの通勤・通学人口は5万人以上おり、平成 22 年から平成 27 年にかけて約 1,000 人増加している。
- ◆ 他県から通勤・通学する人が増加傾向にある。

図 1-10 (1). 大都市の昼夜間人口比率

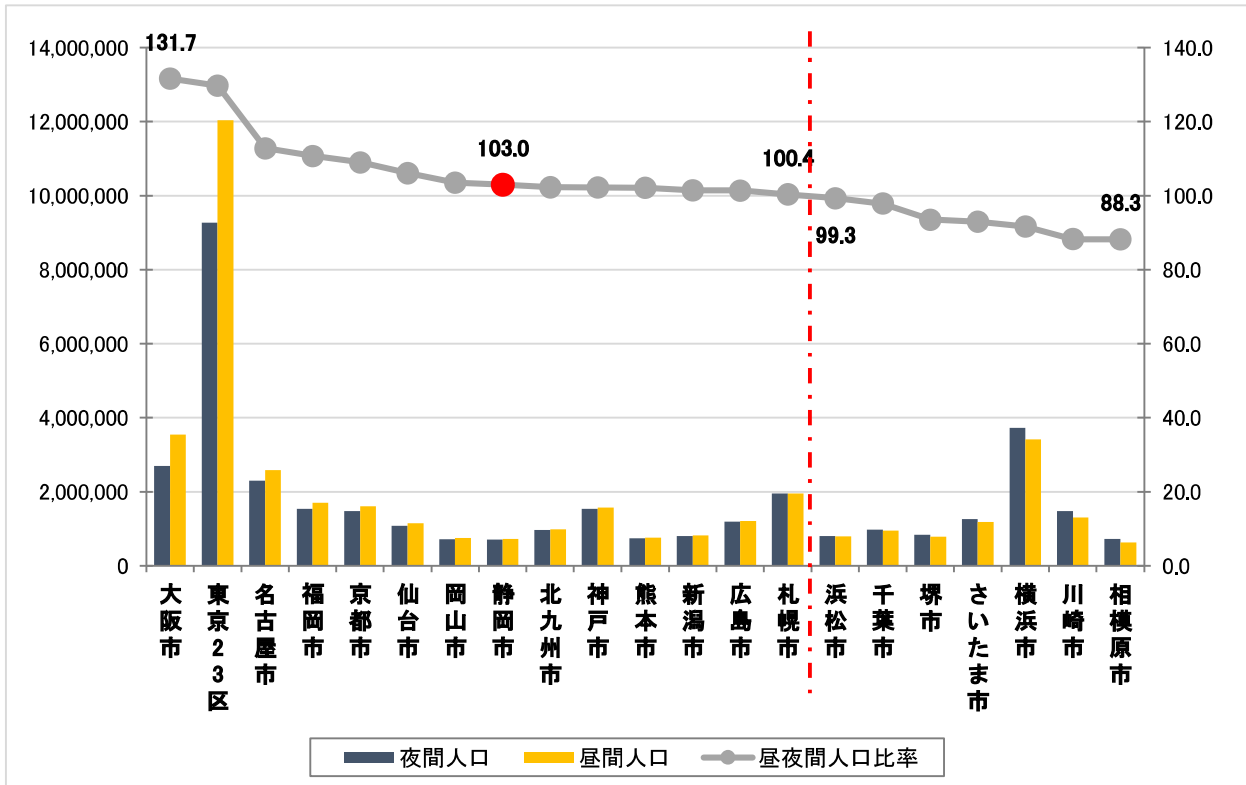
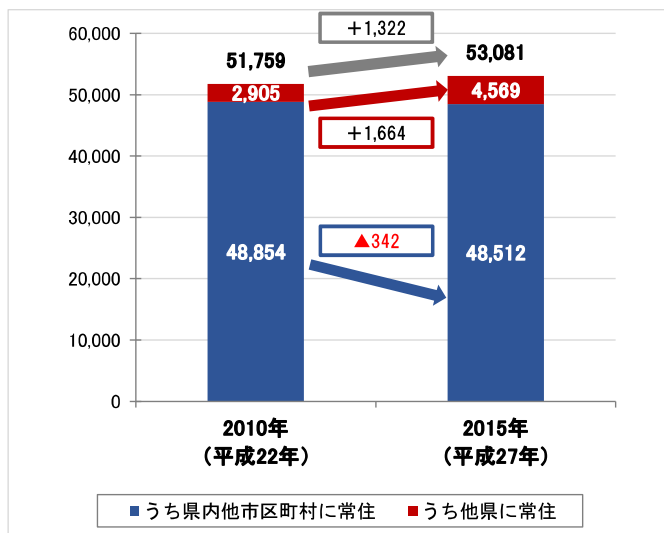


図 1-10 (2). 市外からの通勤・通学人口



【出典】平成 22 年・平成 27 年国勢調査



## 1-11. 大学・短大生徒数

- ◆ 一部の政令指定都市では、高校卒業者と比較して、大学・短大の学生数が高くなっているが、本市では高校卒業者数に比べて、大学・短大の学生数が少ない。

図1-11(1). 大都市の高校卒業生数と大学・短大生徒数の比較

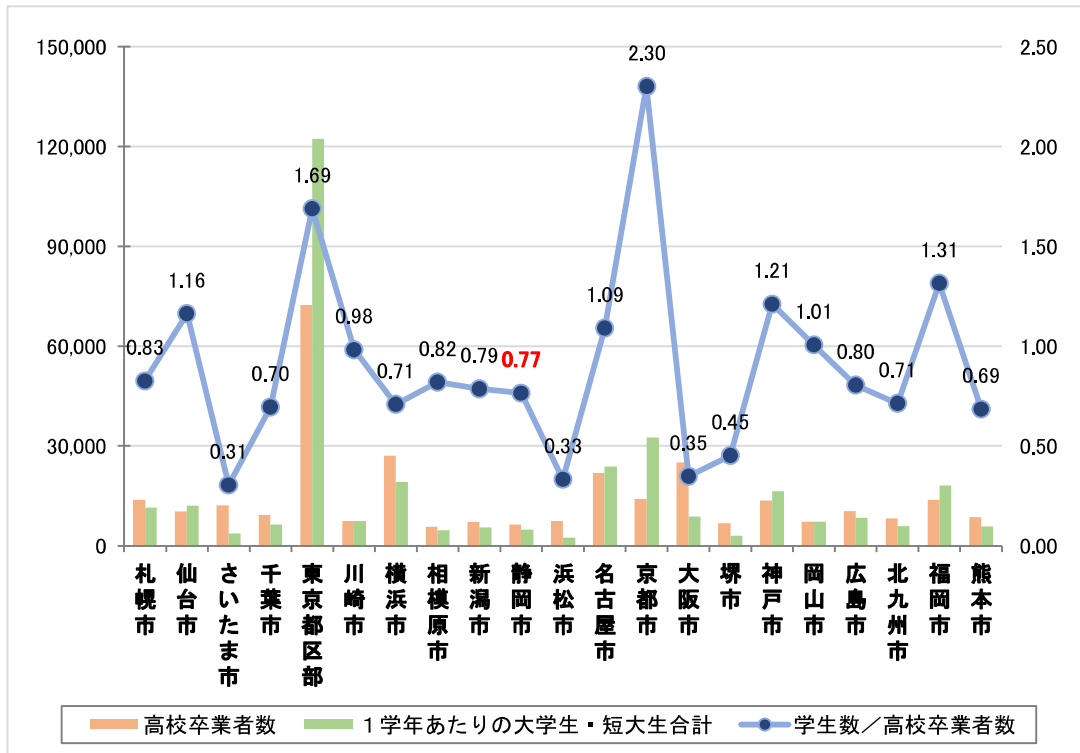
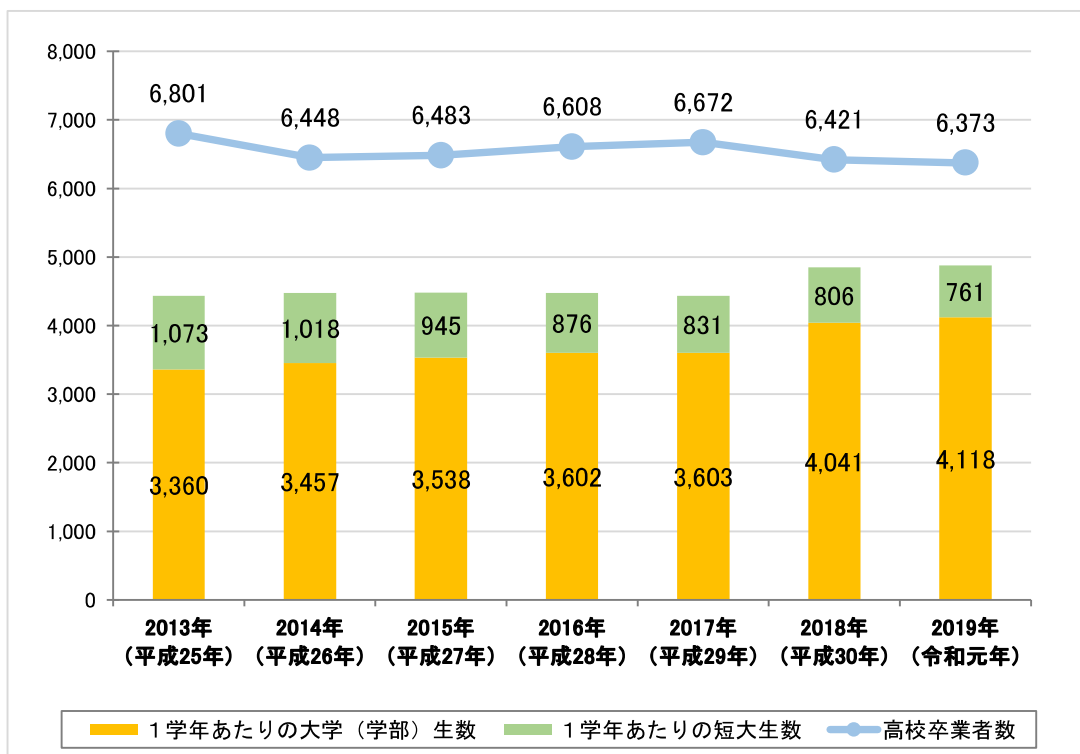


図1-11(2). 静岡市の高校卒業生数と1学年あたりの大学・短大生徒数の推移

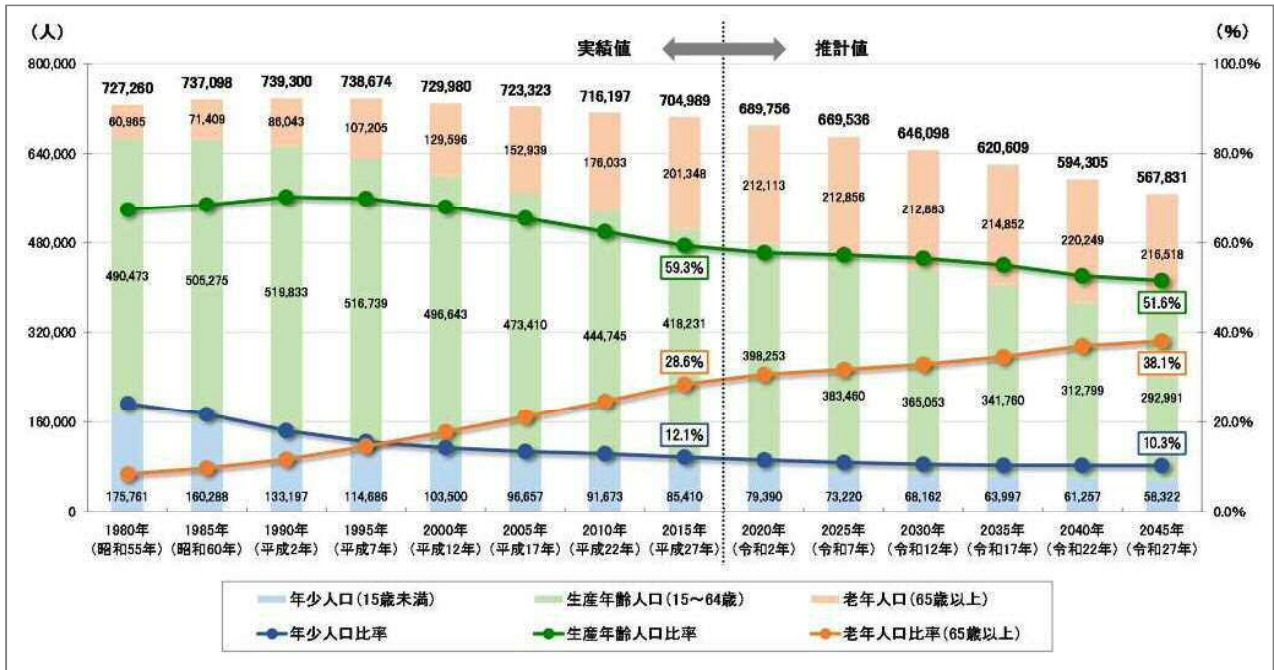


【出典】令和元年大都市比較統計年表

## 1-12. 将来人口シミュレーション

- ◆ 本市の人口は、平成 27 年国勢調査時点で 704,989 人であり、国立社会保障・人口問題研究所の平成 30 年将来人口推計によると、令和 27 年(2045 年)には約 57 万人まで減少することが予測されている。
- ◆ 少子高齢化の進行により、平成 27 年(2015 年)には高齢者が総人口の約3割を占めており、令和 27 年には総人口の約4割が高齢者となることが予測されている。

図 1-12. 将来人口シミュレーション



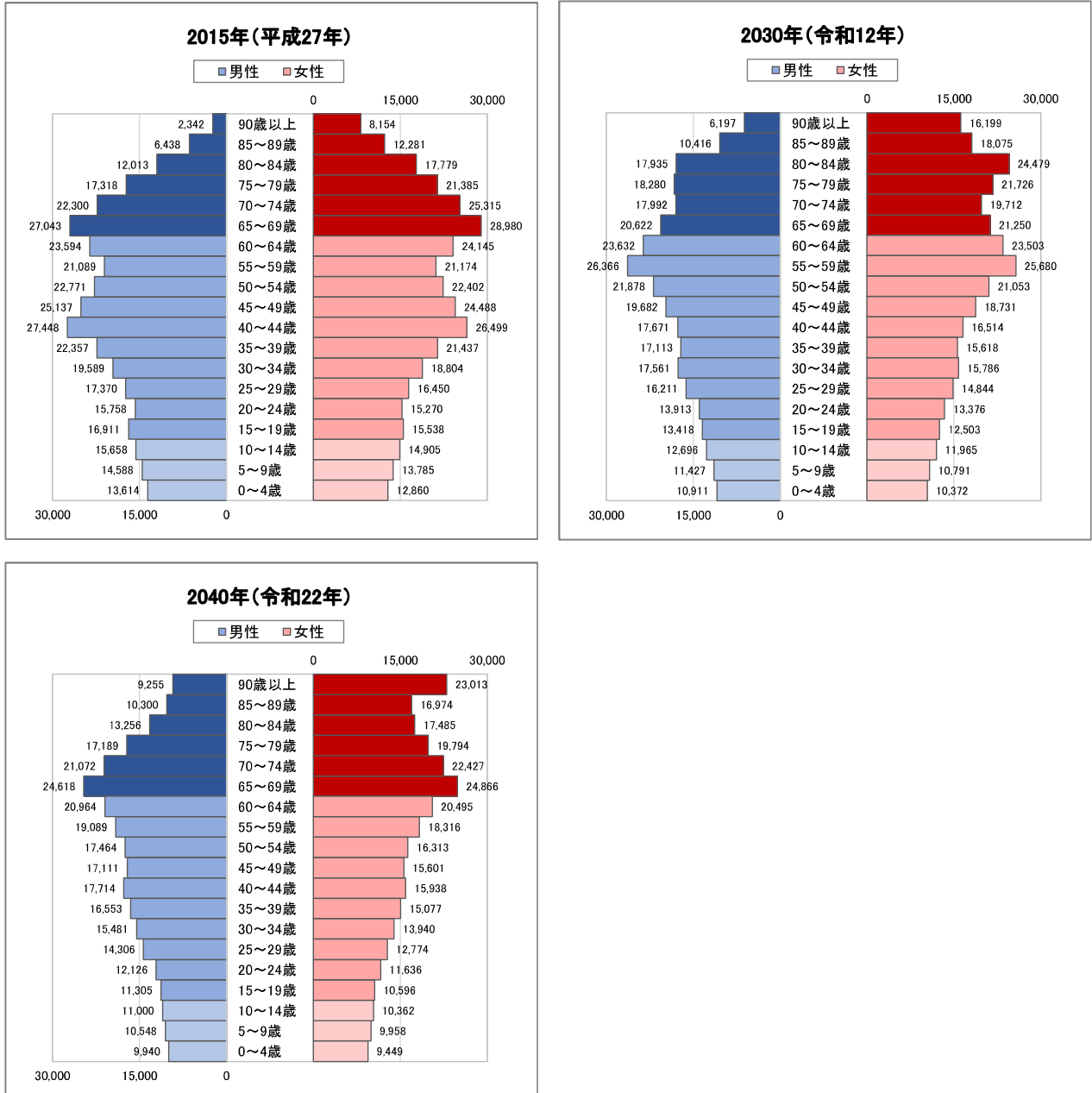
	人口総数	年少人口 (0-14 歳)	生産年齢人口 (15-64 歳)	老年人口 (65 歳以上)	年少人口 (%)	生産年齢人口 (%)	老年人口 (%)
1980 年 (昭和 55 年)	727,260	175,761	490,473	60,965	24.2%	67.4%	8.4%
1985 年 (昭和 60 年)	737,098	160,288	505,275	71,409	21.7%	68.5%	9.7%
1990 年 (平成 2 年)	739,300	133,197	519,833	86,043	18.0%	70.3%	11.6%
1995 年 (平成 7 年)	738,674	114,686	516,739	107,205	15.5%	70.0%	14.5%
2000 年 (平成 12 年)	729,980	103,500	496,643	129,596	14.2%	68.0%	17.8%
2005 年 (平成 17 年)	723,323	96,657	473,410	152,939	13.4%	65.4%	21.1%
2010 年 (平成 22 年)	716,197	91,673	444,745	176,033	12.9%	62.4%	24.7%
2015 年 (平成 27 年)	704,989	85,410	418,231	201,348	12.1%	59.3%	28.6%
2020 年 (令和 2 年)	689,756	79,390	398,253	212,113	11.5%	57.7%	30.8%
2025 年 (令和 7 年)	669,536	73,220	383,460	212,856	10.9%	57.3%	31.8%
2030 年 (令和 12 年)	646,098	68,162	365,053	212,883	10.5%	56.5%	32.9%
2035 年 (令和 17 年)	620,609	63,997	341,760	214,852	10.3%	55.1%	34.6%
2040 年 (令和 22 年)	594,305	61,257	312,799	220,249	10.3%	52.6%	37.1%
2045 年 (令和 27 年)	567,831	58,322	292,991	216,518	10.3%	51.6%	38.1%

【出典】各年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計【2018 年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

### 1-13. 性別・5歳階級別人口ピラミッド

- ◆ 将来的な少子高齢化の進行に加えて、第二次ベビーブームの間に生まれた団塊ジュニア世代が2030年代後半から高齢者となるため、2040年の人口ピラミッドでは、特に平均寿命の長い女性で老年人口の増加が目立つ。

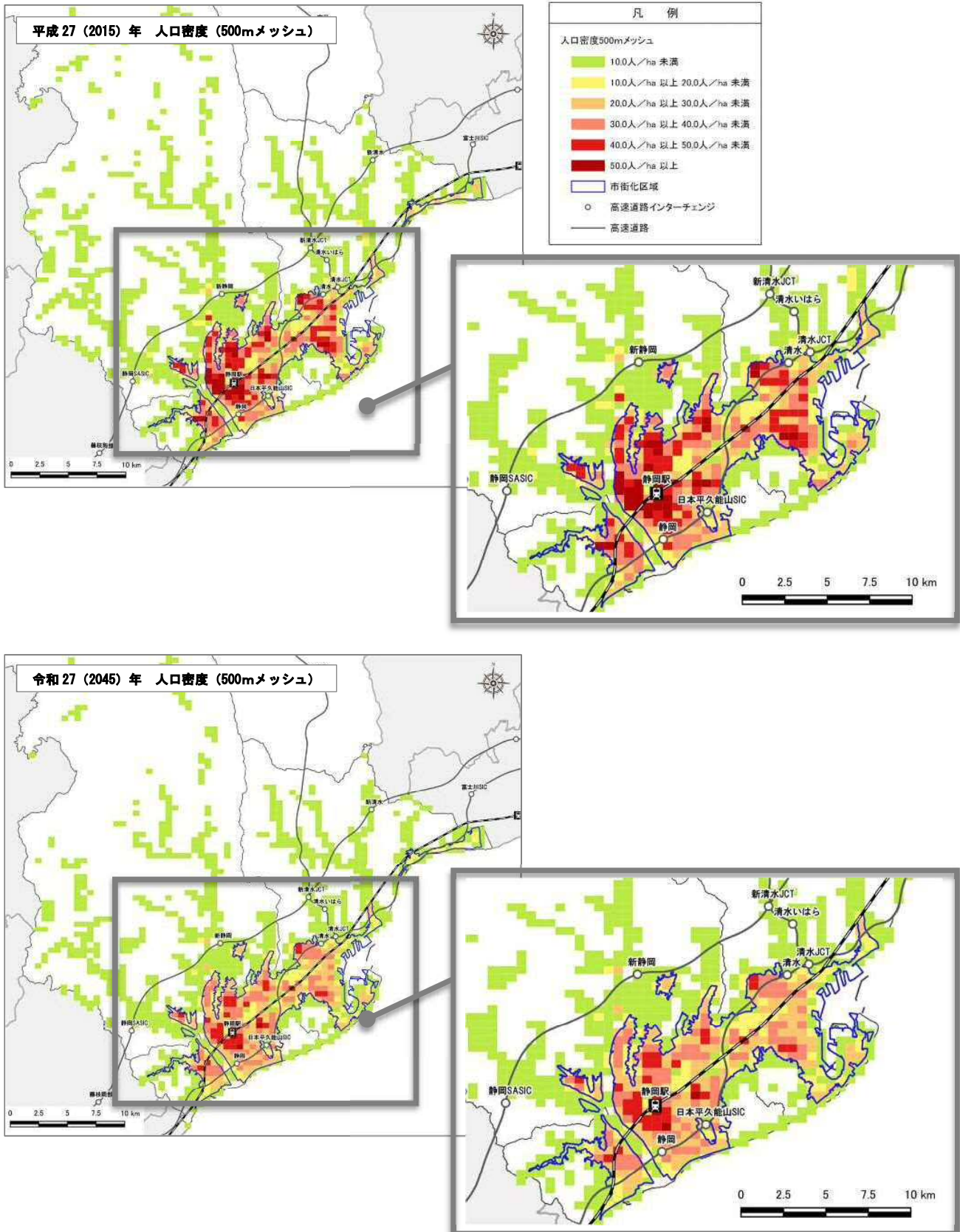
図1-13. 人口ピラミッド



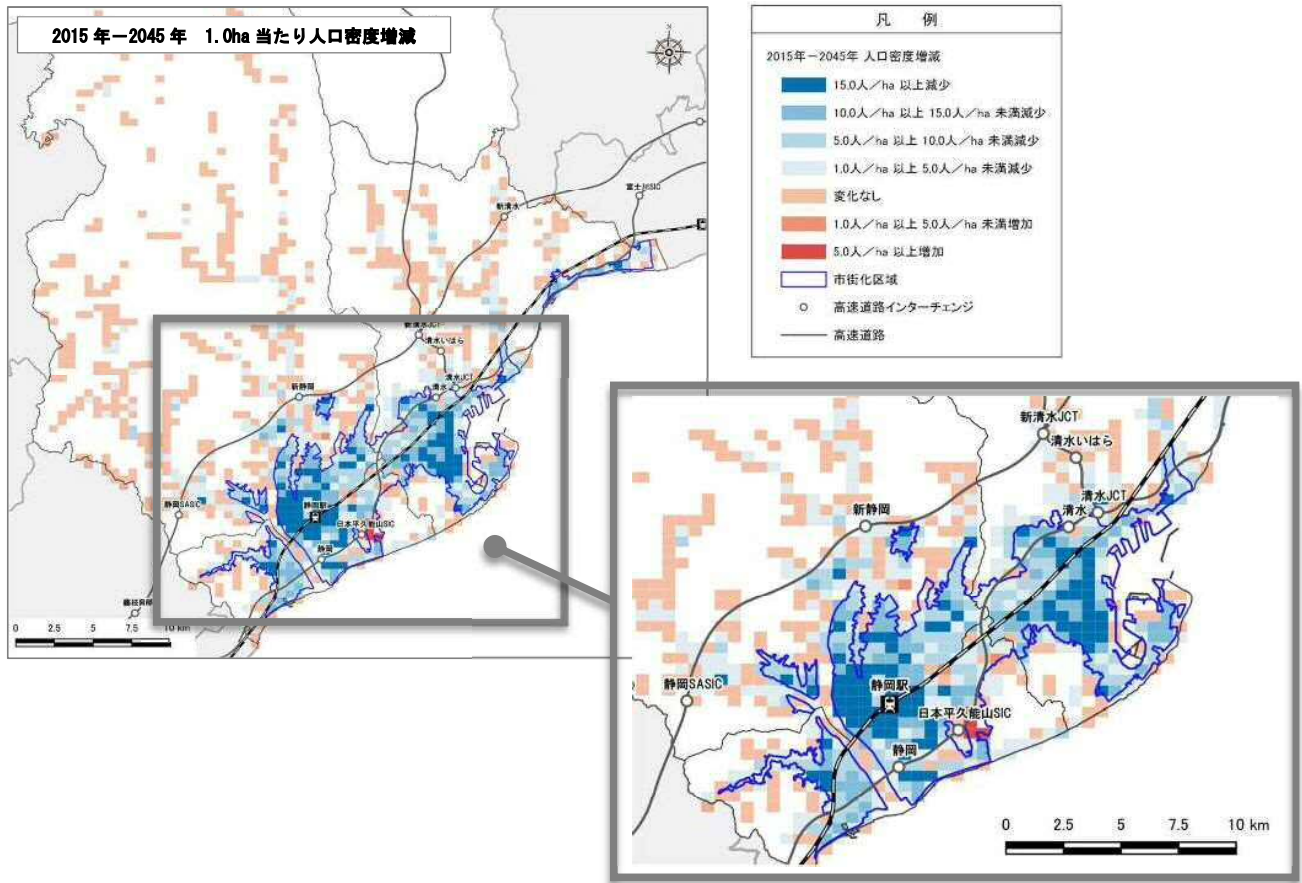
【出典】平成27年国勢調査(総務省)、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)

## 1-14. 人口密度増減マップ (2015年→2045年)

◆ 市域全体で人口密度の低下が見られ、特に、静岡駅周辺及び清水区において減少が顕著である。







1-15. 年齢三分区人口割合の推移マップ (2015年→2045年)

- ◆ 少子高齢化の進行により、市域全体で年少人口比率、生産年齢人口比率の低下や老年人口比率の増加が予測される。

図1-15(1). 老年人口(65歳以上)比率の推移

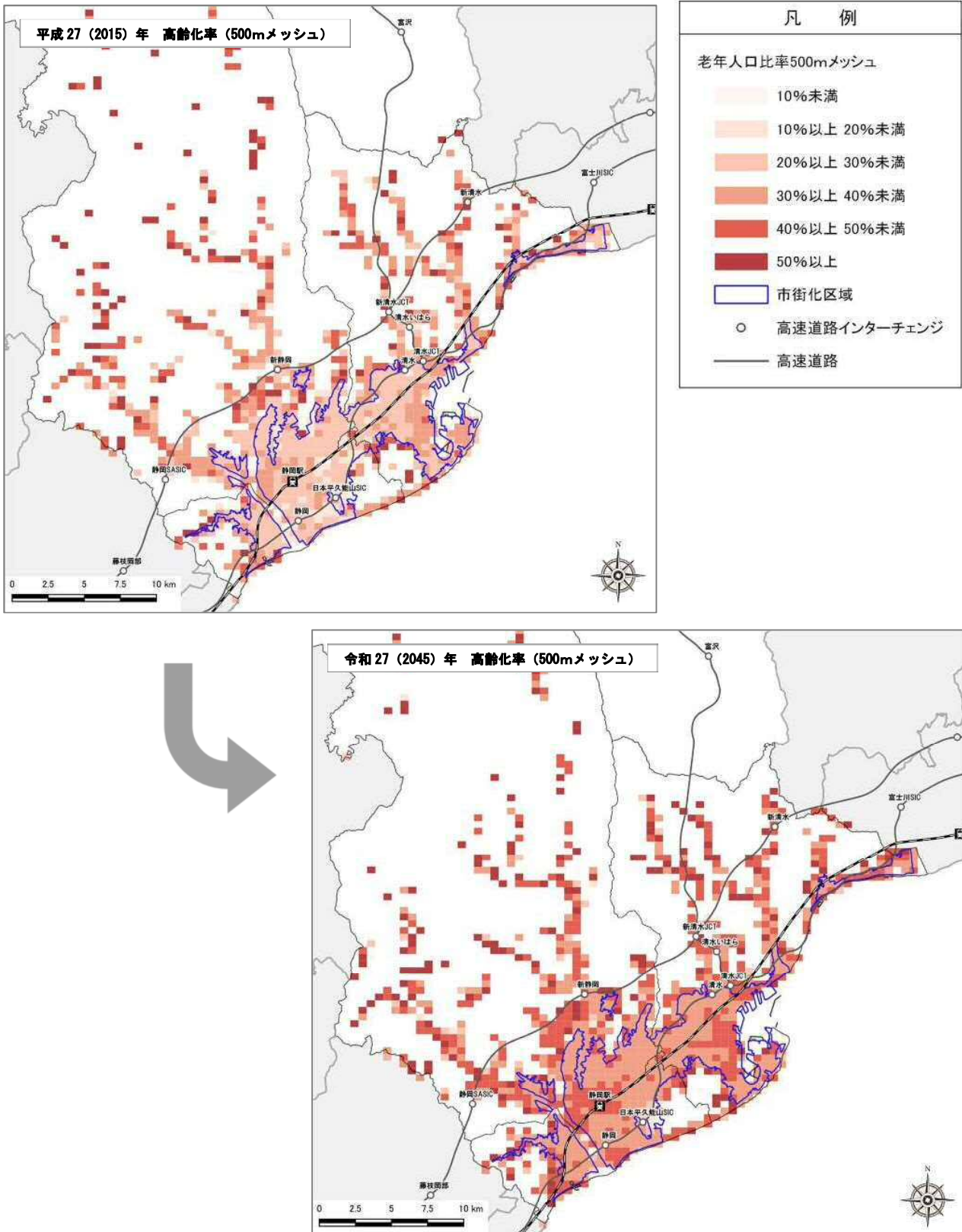


図1-15(2). 生産年齢人口(15歳~64歳)比率の推移

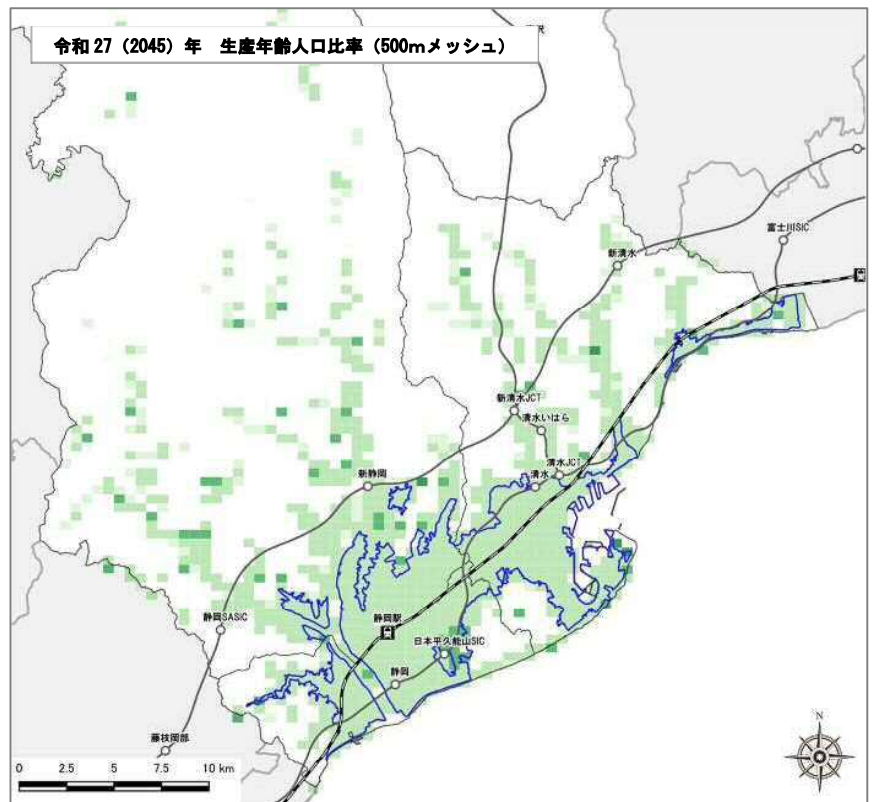
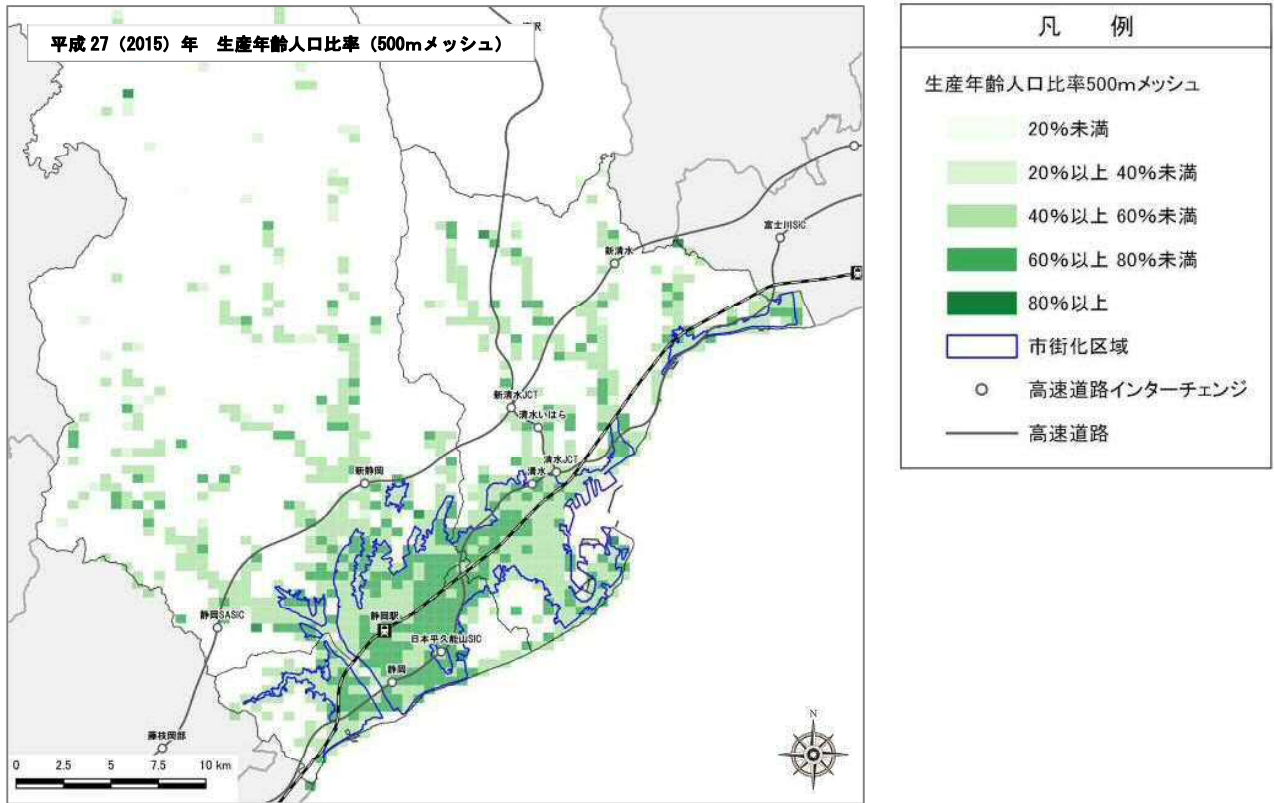
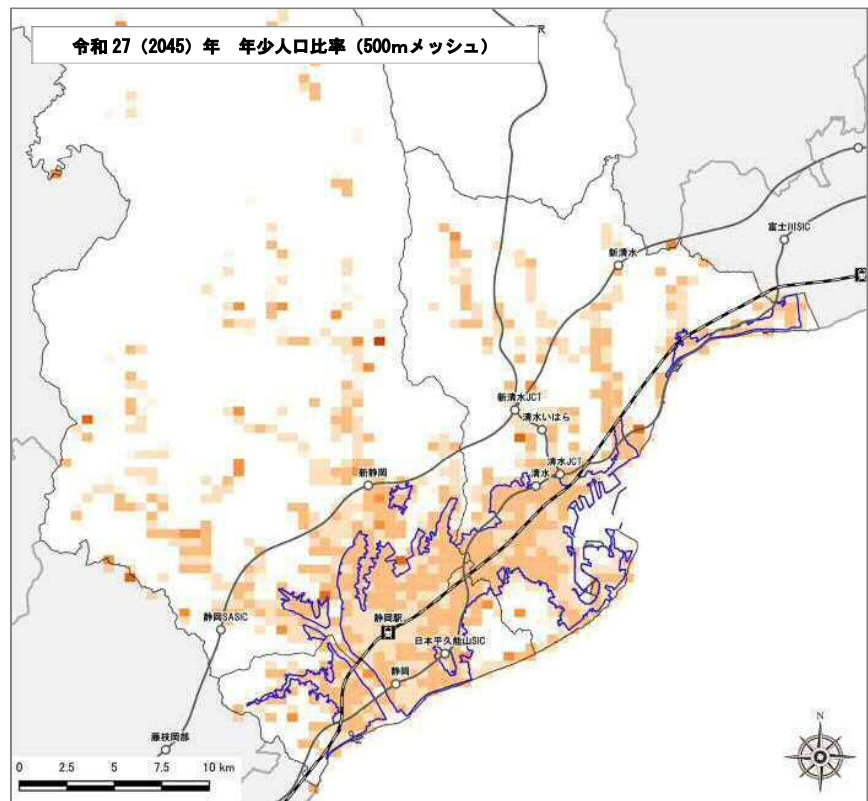
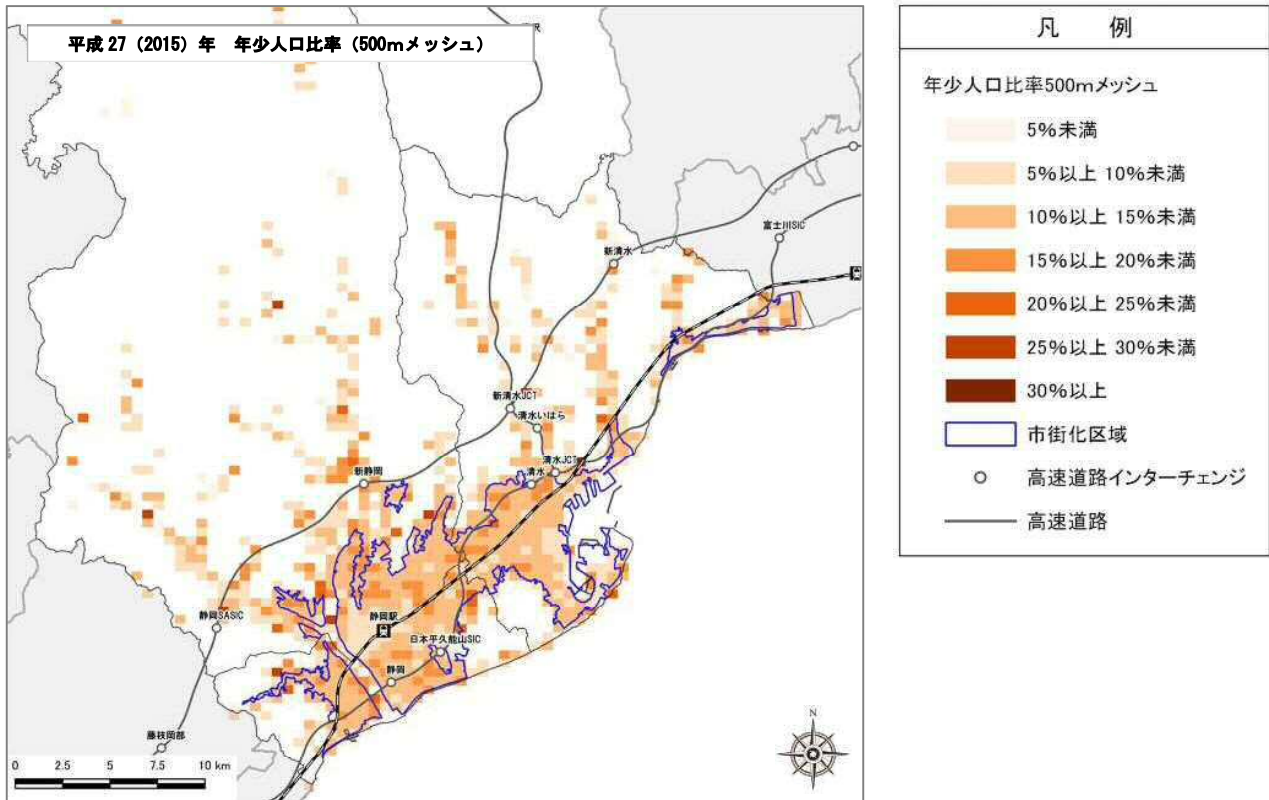




図1-15(3). 年少人口(0歳~14歳)比率の推移



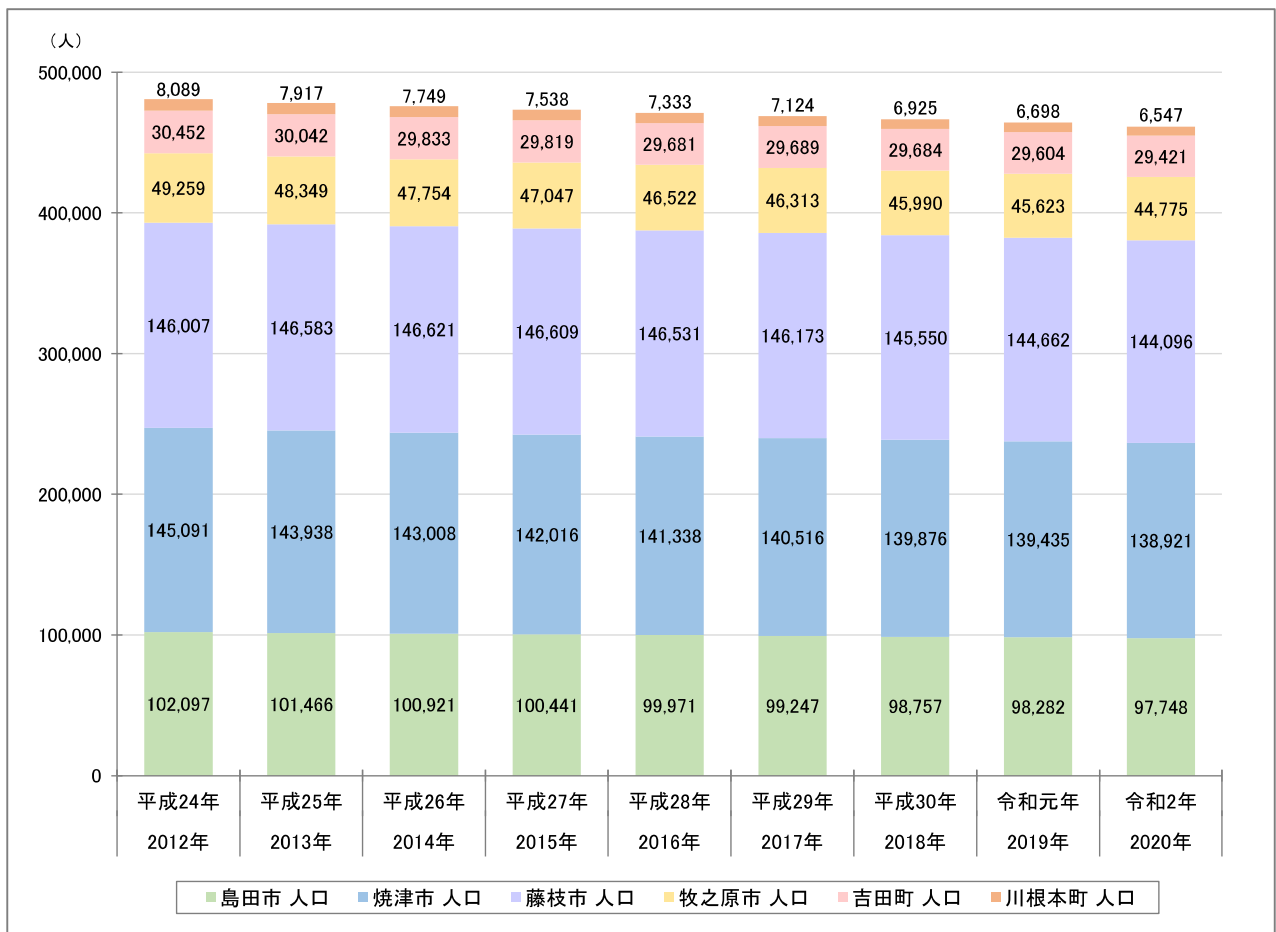
【出典】平成 27 年国勢調査(総務省)、国土数値情報(国土交通省)  
日本の地域別将来人口推計【2018 年推計】(国立社会保障・人口問題研究所)



## 1-16. 連携中枢都市圏の圏域人口（静岡市を除く）

- ◆ 本市とともに、連携中枢都市圏を構成する4市2町（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）の令和2年の人口は、約46万人である。
- ◆ 「しずおか中部連携中枢都市圏ビジョン」では、将来目標人口の達成に向けて、連携事業の推進を図ることとしている。
- ◆ 各市町いずれも人口は減少傾向にある。

図1-16. 連携中枢都市圏の圏域人口



### 【出典】

島田市ホームページ「島田市の人口・世帯」(各年12月末時点)

焼津市ホームページ「焼津市の住民基本台帳」(各年12月末時点)

藤枝市ホームページ「統計情報」(2011年:11月末時点、2012年:9月末時点、2013年:7月末時点、2014年:4月末時点、その他:12月末時点)

牧之原市ホームページ「牧之原市行政区別人口・世帯数」(各年12月末時点)

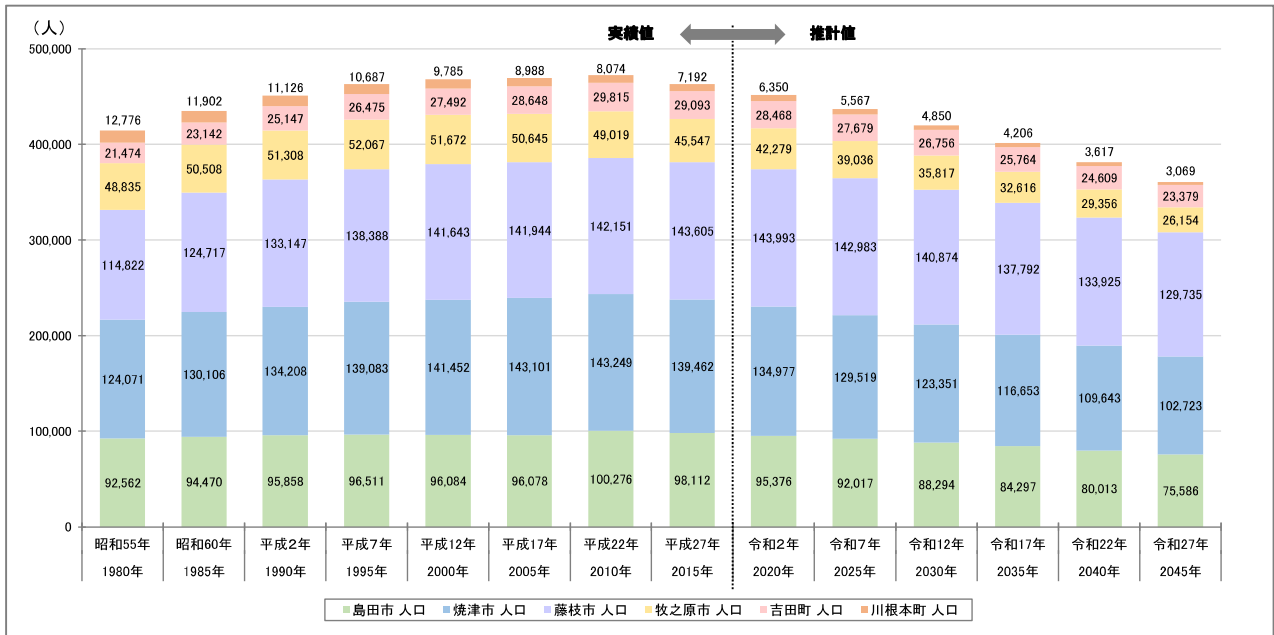
吉田町ホームページ「吉田町の人口の動き」(各年12月末時点)

川根本町ホームページ「人口・世帯数」(各年10月1日時点)

## 1-17. 連携中枢都市圏の将来人口シミュレーション（静岡市を除く）

- ◆ 本市とともに、連携中枢都市圏を構成する4市2町（島田市、焼津市、藤枝市、牧之原市、吉田町、川根本町）のいずれも、将来的な人口減少が予測されている。
- ◆ 4市2町の合計は平成 27 年に約 46 万人であるが、令和 27 年には約 36 万人となり、30 年で 10 万人減少することが予測されている。

図 1-17. 連携中枢都市圏の将来人口シミュレーション



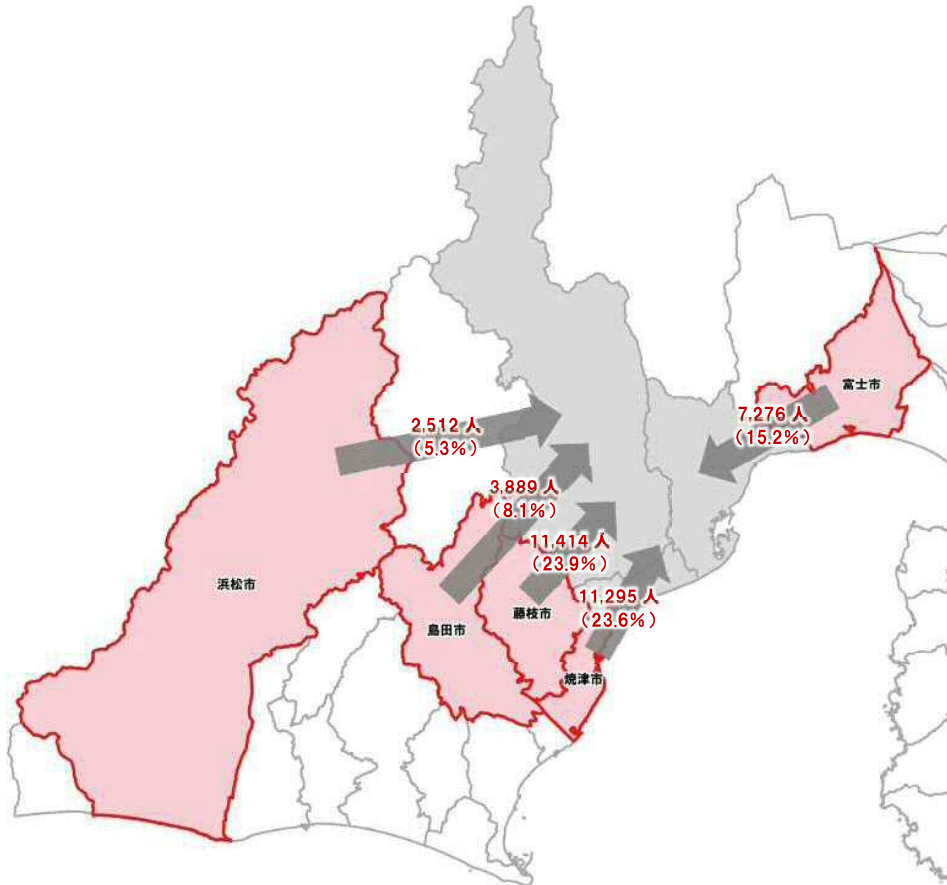
【出典】各年国勢調査（総務省）、日本の地域別将来人口推計【2018年推計】（国立社会保障・人口問題研究所）

- ※島田市（平成 12 年以前）は、旧島田市・旧金谷町の合計値
- ※焼津市（平成 17 年以前）は、旧焼津市・旧大井川町の合計値
- ※藤枝市（平成 17 年以前）は、旧藤枝市・旧岡部町の合計値
- ※牧之原市（平成 17 年以前）は、旧相良町・旧榛原町の合計値
- ※川根本町（平成 12 年以前）は、旧本川根町・旧中川根町の合計値

## 1-18. 県内自治体間における人の動き

- ◆ 平成 27 年国勢調査における県内 15 歳以上の通勤・通学人口をみると、本市への流入は隣接する藤枝市など連携中枢都市圏を構成する自治体間での人の動きが活発で、強い繋がりがみられる。

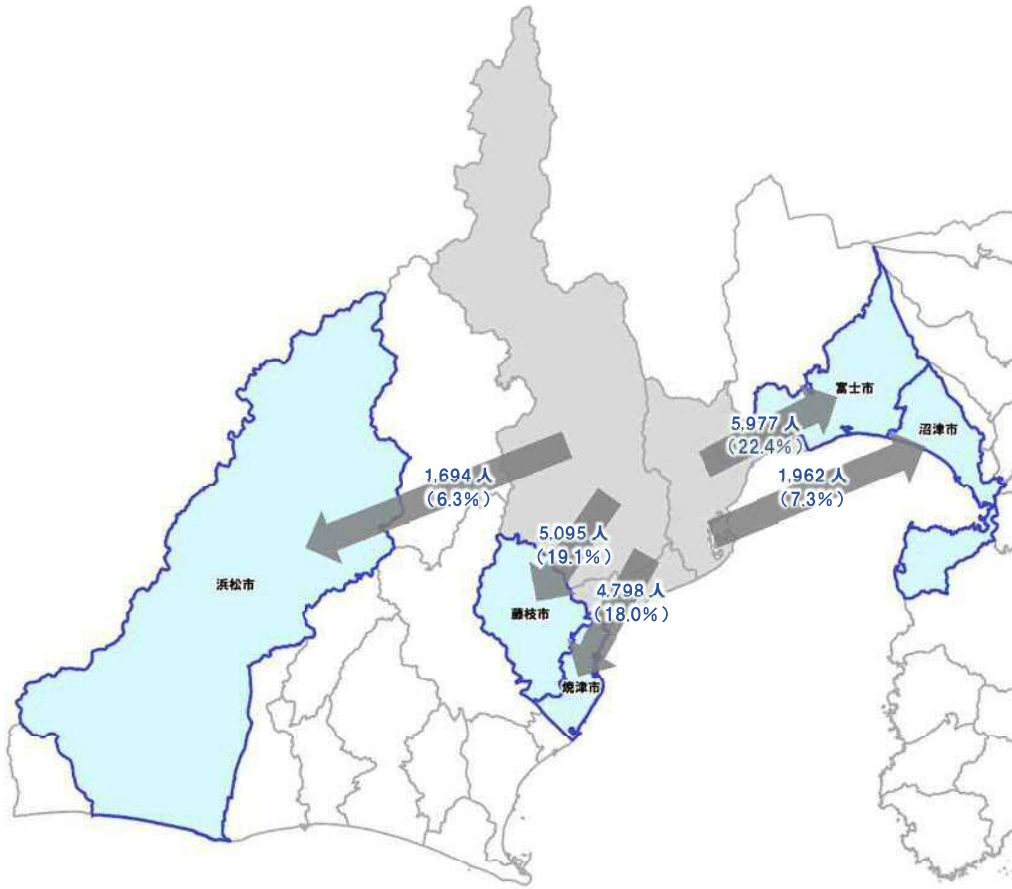
図 1-18 (1). 県内自治体から静岡市への流入人口 (ベスト 5)



静岡市		葵区		駿河区		清水区	
1. 藤枝市	11,414 人 23.9%	1. 藤枝市	5,815 人 25.0%	1. 焼津市	4,234 人 28.5%	1. 富士市	3,903 人 40.1%
2. 焼津市	11,295 人 23.6%	2. 焼津市	5,523 人 23.8%	2. 藤枝市	4,126 人 27.8%	2. 焼津市	1,538 人 15.8%
3. 富士市	7,276 人 15.2%	3. 島田市	2,197 人 9.5%	3. 島田市	1,238 人 8.3%	3. 藤枝市	1,473 人 15.1%
4. 島田市	3,889 人 8.1%	4. 富士市	2,138 人 9.2%	4. 富士市	1,235 人 8.3%	4. 富士宮市	790 人 8.1%
5. 浜松市	2,512 人 5.3%	5. 浜松市	1,501 人 6.5%	5. 浜松市	791 人 5.3%	5. 島田市	454 人 4.7%
その他	11,416 人 23.9%	その他	6,050 人 26.1%	その他	3,217 人 21.7%	その他	1,579 人 16.2%
合計	47,802 人 100.0%	小計	23,224 人 100.0%	小計	14,841 人 100.0%	小計	9,737 人 100.0%

【出典】平成 27 年国勢調査「就業地・通学地集計」(総務省)

図1-18(2). 静岡市から県内自治体への流出口口(ベスト5)



静岡市		葵区		駿河区		清水区	
1. 富士市	5,977 人 22.4%	1. 藤枝市	2,003 人 24.2%	1. 焼津市	2,404 人 25.4%	1. 富士市	3,960 人 44.1%
2. 藤枝市	5,095 人 19.1%	2. 焼津市	1,610 人 19.5%	2. 藤枝市	2,353 人 24.9%	2. 沼津市	904 人 10.1%
3. 焼津市	4,798 人 18.0%	3. 富士市	1,086 人 13.1%	3. 富士市	931 人 9.8%	3. 焼津市	784 人 8.7%
4. 沼津市	1,962 人 7.3%	4. 浜松市	661 人 8.0%	4. 浜松市	673 人 7.1%	4. 藤枝市	739 人 8.2%
5. 浜松市	1,694 人 6.3%	5. 島田市	537 人 6.5%	5. 島田市	582 人 6.2%	5. 富士宮市	582 人 6.5%
その他	7,173 人 26.9%	その他	2,368 人 28.7%	その他	2,518 人 26.6%	その他	2,004 人 22.3%
合計	26,699 人 100.0%	小計	8,265 人 100.0%	小計	9,461 人 100.0%	小計	8,973 人 100.0%

【出典】平成27年国勢調査「就業地・通学地集計」(総務省)

## 4次総策定会議準備会（4/14） 各局・区の主な意見まとめ

分類	意見
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状分析をしっかりと行い、エビデンスに基づいた政策立案を図るべき</li> <li>・PDCAをしっかりと回すために、Pの段階でC→Aを議論しておく必要がある</li> <li>・図、表などを用いて、わかりやすい冊子としたい</li> <li>・コロナによって発生した課題と、そうでない課題と区別してまちづくりを検討すべきでは</li> <li>・●大構想、総合戦略、SDGs、ランドデザイン、分野別計画等の関係性を明確に整理してほしい</li> <li>・4次総の基本方針を示し、次に、基本理念、目指す姿を明記すべきでは</li> <li>・DXの記載は今後の社会に重要だと考えるため、目立つように記載すべき</li> <li>・各局、区で各種個別計画を所管しているおり、計画期間も合わせているものも多いので、連携して進めたい。</li> </ul>
基本構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界に輝く静岡」とは具体的にはどのようなことなのか</li> <li>・「目指す都市像」を書き込まず、抽象的で理念的なものにしてみてもどうか</li> <li>・SDGsの「誰ひとり取り残さない」、「持続可能なまち」は基本構想に盛り込んでもいいのでは</li> <li>・基本構想を先行して作成し、バックキャストで基本計画を検討していくべきではないか</li> <li>・基本構想に目標年次はないが、概ね〇年程度と定めてはどうか</li> <li>・「まちづくりの目標」と「市政のさらなる展開」は基本計画へ入れるべきではないか</li> <li>・●大構想の目指す姿は基本構想へ位置付けるべきではないか</li> </ul>

基本計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市政のさらなる展開」で示す、垂直方向の「都市の発展」、水平方向の「くらしの充実」が理解されにくい</li> <li>・組織とリンクした分野の方が説明しやすい</li> <li>・成果指標や数値目標の考え方、評価についてしっかり整理すべき</li> <li>・「都市構造軸」については、必要性や内容について再検討が必要</li> <li>・「各区の取組」は3区のランドデザインが出来上がり、●大構想で触れればいけないのでは</li> <li>・SDGs にいて、各ゴール、ターゲットから、どのように施策化していくか十分に議論が必要。</li> <li>・グリーンについて SDGs の項目ではなく、地域活力の維持の項目に入れてはどうか</li> <li>・各局で作成している計画を吸い上げる形で構成してみても</li> <li>・分野別が目的、目標、手段が混在しており、整理が必要だと思う</li> <li>・分野別と別に世代別（若者、子育て、シルバーなど）に整理してもいいのではないか</li> </ul>
策定体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内プロジェクトチームには幅広い分野から構成してほしい</li> <li>・プロジェクトチームに参加する職員の負担が過度に大きくならないようにしてほしい（局、課の企画主任者と役割分担できるように）</li> <li>・全職員に対して、各個人が思い描く静岡市の在り方を意見聴取して、意識の高揚に努めてはどうか</li> </ul>
市民意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な手法で、幅広く市民意見を聴取したい（積極的に高校生や大学生の意見を取り入れるなど）</li> <li>・策定段階から積極的な情報発信を実施したい。実行の過程においても、市民に理解してもらう必要がある。</li> <li>・市職員のOBから地域の声としてアンケート調査してはどうか</li> <li>・県外の人や転出者に意見聴取してもよいのでは</li> <li>・市内企業等からの意見聴取も必要ではないか</li> </ul>

	タイトル	著者	発行書	刊行年
1	人口減少社会のデザイン	ひろい よしのり 広井 良典	東洋経済新報社	2019年
2	SDGs ～持続可能な開発目標～	かにえ のりちか 蟹江 憲史	中央公論新社	2020年
3	本当に住んで幸せな街 ～全国「官能都市」ランキング～	しまはら まんじょう 島原万丈+HOME'S総研	光文社	2016年
4	創造都市への挑戦 ～産業と文化の息づく街へ～	ささき まさゆき 佐々木 雅幸	岩波書店	2012年
5	世界のコンパクトシティ ～都市を賢く縮退するしくみと効果～	たにぐち まもる 谷口 守 ほか	学芸出版社	2019年
6	最強の縄文型ビジネス ～イノベーションを生み出す4つの原則～	やなか しゅうご 谷中 修吾	日本経済新聞出版社	2019年
7	未来の年表 ～人口減少日本でこれから起きること～	かわい まさし 河合 雅司	講談社	2017年
8	2040年の未来予測	なるけ まこと 成毛 眞	日経BP	2021年
9	日本再生のための「プランB」 ～医療経済学による所得倍増計画～	ゆう へいきょう 兪 炳匡	集英社	2021年

